

専門科目の目次 (2017年度以前入学生用)

このシラバスは、旧カリキュラム(16・17E)の科目区分別に編成されています。15E以前の学生が旧カリキュラムの科目を履修する場合には、当該科目が旧々カリキュラムのどの授業科目に対応しているかを開講科目一覧で確認すること。

また新カリキュラムのスタートにより、一部科目の名称が変更となっています。履修する場合には、当該科目が旧カリキュラムまたは旧々カリキュラムのどの授業科目に対応しているかを開講科目一覧で確認すること。

経済学科

政治経済学Ⅱ	……	1	経済政策Ⅱ	……	2
社会政策B	……	3	財政学B	……	4
金融論Ⅱ	……	5	計量経済学Ⅱ	……	6
アジア経済論	……	8	応用ミクロ経済学	……	9
応用マクロ経済学	……	10	福祉経済論Ⅰ	……	12
福祉経済論Ⅱ	……	14	国際経済学A	……	16
経済統計A	……	17	経済統計B	……	18
(特) 公共経済学	……	19	(特) 金融政策Ⅰ	……	20

経営システム学科

人的資源管理論A	……	22	経営学史	……	23
経営学史	……	25	環境システム論	……	26
資源エネルギー論	……	28	企業と社会	……	30
経営組織論B	……	32	マーケティング論B	……	34
消費者行動	……	35	経営統計学	……	37
保険システム論	……	38	商品実験	……	39
経営財務論	……	40	調査データ分析	……	41
国際経営論	……	42	流通システム論B	……	44
株式会社会計	……	45	監査論	……	46
原価計算論	……	47	コストマネジメント論	……	48
サービス・マーケティング論	……	50	財務会計論B	……	51
(特) 実践で学ぶ密着型ビジネスA	……	53	(特) 実践で学ぶ密着型ビジネスB	……	55
(特) Globalization in the higher education sector: trends, issues, and strategies	……	57			

地域社会システム学科

言語学概論	……	58	文化人類学	……	59
ヨーロッパ社会経済史	……	60	ヨーロッパ社会論	……	61
アジア文化論	……	63	アジア経済論	……	65
現代韓国・朝鮮研究	……	66	アメリカ社会論	……	67
観光政策論	……	69	観光文化論	……	71
比較近代化論	……	72	外国語演習Ⅱ(韓国語)	……	73
外国語会話Ⅰ(ドイツ語)	……	74	外国語会話Ⅰ(中国語)	……	75
外国語会話Ⅱ(ドイツ語)	……	76	外国語会話Ⅱ(韓国語)	……	77
外国語会話Ⅲ(ドイツ語)	……	78	ビジネス英語Ⅰ	……	79
ビジネス英語Ⅱ	……	80	(特) 地域研究論	……	81
(特) 観光地理学	……	83			

ナンバリングコード B3ECN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312032) 政治経済学Ⅱ Political Economy Ⅱ	科目区分	時間割 後期末3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 沖 公祐	関連授業科目	政治経済学Ⅰ	
	履修推奨科目	政治経済学Ⅰ	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習			
授業の概要 「政治経済学Ⅰ」を踏まえたうえで、資本主義の原理についての発展的な講義を行う。マルクス経済学の特徴は、資本主義的生産が1回かぎりのものではなく、繰り返しの過程であることを重視するところにある。本講義では、はじめに、資本主義において、社会全体がいかんして繰り返し再生産され、さらには、発展していくかを明らかにする。次いで、「政治経済学Ⅰ」では単純化のために捨象しておいた資本間の競争という要因を導入し、市場を通じて社会的再生産が編成される仕組みを説明する。併せて、資本の競争を補足する諸機構、すなわち、地代、商業資本、信用機構についても解説する。最後に、長期的な動態に目を移し、資本主義経済の発展が、好況→恐慌→不況→好況…というダイナミズムを描くことを示す。			
授業の目的 「政治経済学Ⅰ」では、資本主義の基本的な仕組みを把握することに主眼が置かれたが、この講義では、資本主義経済の全体像に一步一步近づいていくことになる。「政治経済学Ⅰ」と「政治経済学Ⅱ」を併せて学ぶことで、現実経済を分析するための目が養われることが期待できる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・再生産表式を導き出すことができる。 ・資本主義的市場における価格決定メカニズムを説明することができる。 ・地代、商業資本、信用の基本的概念を説明することができる。 ・景気循環の原理的メカニズムを説明することができる。 			
成績評価の方法と基準 小テストと期末試験によって評価を行なう。配点は、小テスト20点、期末試験80点とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 板書および口述筆記による。 0. ガイダンス (1回) 1. 資本の蓄積 (1回) 2. 再生産表式 (2回) 3. 利潤 (3回) 4. 地代 (2回) 5. 商業資本 (1回) 6. 信用機構 (3回) 7. 景気循環 (2回) 期末試験 【自学自習について】 自筆ノートおよび授業後web上に掲載する講義概要に基づく復習が中心となる。			
教科書・参考書等 教科書：使用しない 参考書：小幡道昭『経済原論』（東京大学出版会） 沖公祐『「富」なき時代の資本主義——マルクス『資本論』を読み直す』（現代書館）			
オフィスアワー 初回時に指定する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ この講義は「政治経済学Ⅰ」の内容を前提としている。履修希望者は、「政治経済学Ⅰ」を必ず履修しておくこと。			

ナンバリングコード B3ECN-bcdE-30-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 312126) (特) 比較経済政策 Compare Economic Policy	科目区分	時間割 後期月3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 岡田 徹太郎	関連授業科目		
	履修推奨科目 経済政策		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 経済政策にかかわる様々なトピック（各論）を取り上げる。 受講者は、本講義と並行して、政府や国会、日本銀行などで、どのような政策の発動が議論されているか、ニュースに注意を払うことが望ましい。			
授業の目的 経済政策に関わるトピックを深く理解することを目的とし、さまざまな疑問に対する回答を、自ら導き出せるようにする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 金融政策の課題について説明できる。 2. 雇用政策の課題について説明できる。 3. 福祉政策の課題について説明できる。			
成績評価の方法と基準 グループワークへの取り組み20点、レポート20点、小テスト10点、期末試験50点の合計100点満点とし、学則にしたがった成績をつける。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画 板書・口述筆記による。 (1) 資本主義社会と経済政策 (2) 金融政策(1)―金融とは何か (3) 金融政策(2)―預金通貨と信用創造 (4) 金融政策(3)―中央銀行の金融政策I (5) 金融政策(4)―中央銀行の金融政策II (6) 金融政策(5)―バブルの発生と崩壊 (7) 金融政策(6)―金融政策の課題 (8) 雇用政策(1)―日本的雇用慣行 (9) 雇用政策(2)―雇用の現況と課題 (10) 福祉政策(1)―福祉政策の目的 (11) 福祉政策(2)―年金保険 (12) 福祉政策(3)―医療保険 (13) 福祉政策(4)―公的扶助（生活保護） (14) 福祉政策(5)―セーフティ・ネットの再構築 (15) 福祉政策(6)―福祉政策の未来 ・自学自習に関するアドバイス 講義毎に、指定教科書の該当範囲を指定するので、講義前に教科書を熟読し、予習をすること。加えて、講義後にレポートを課すので、講義内容を振り返り、復習し、まとめ・疑問・感想などを取りまとめて提出すること。 			
教科書・参考書等			
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 田代洋一・萩原伸次郎・金沢史男編『現代の経済政策（第4版）』有斐閣ブックス，2011年。 ・参考書 経済辞典として、金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣 経済辞典』第5版、を指定する。 			
オフィスアワー 火曜日IV時限			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 大教室におけるアクティブラーニングで学修します。授業に積極的に関わってください。			

ナンバリングコード B3ECN-badE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312132) 社会政策B Social Policy B	科目区分	時間割 前期火4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 badE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 佐藤 忍	関連授業科目	社会政策A	
	履修推奨科目	経済政策、財政学、福祉経済論	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 この講義は、社会保険の基本的な仕組みを概説する。とりわけ保険事故と保険給付との対応関係を重点的に解説する。そうすることで社会保険を身近なものに感じてもらうことが狙いである。そして年金についてもその理解を深めるために、年金額の計算に習熟してもらうつもりである。			
授業の目的 社会政策とは、「生きる」「働く」「老いる」といった私たちの生活のあり方を根底から規定する諸政策の総称である。この授業は、社会保険の基本構造、とりわけ年金制度の仕組みに習熟することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 社会保険の基本を理解し、身近なものとして実感できるようになる。 2. 年金額の計算をつうじて年金制度への正しい理解を獲得する。			
成績評価の方法と基準 宿題（練習問題）、期末試験に基づき総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 口述筆記と板書による。 ガイドンス……………(1) I 社会保険の概要 1. 狭義の社会保険……………(2～4) 2. 労働保険……………(5～8) II 年金 1. 老齢基礎年金……………(9～10) 2. 老齢厚生年金……………(11～12) 3. 遺族年金……………(13～14) まとめ……………(15) 日本年金機構・高松西年金事務所による講演のほか、授業の進行に合わせて現在の社会問題に関連するビデオを鑑賞する。授業の理解度を確認するために練習問題等の宿題を課すので、自学自習のきっかけとして積極的に活用すること。			
教科書・参考書等 使用しない。 椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』有斐閣、『図解 わかる年金』新星出版社、適宜、指示する。			
オフィスアワー 火曜3時間目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 年金計算には電卓が必須である。各自、用意しておくこと。			

ナンバリングコード B3ECN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312142) 財政学B Public Finance B	科目区分	時間割 後期金4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 長山 貴之	関連授業科目	財政学A	
	履修推奨科目	ミクロ経済学Ⅰおよびマクロ経済学Ⅰ	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習			
授業の概要 財政学は租税論、公債論、予算論、経費論、財政政策、地方財政論などから構成されるが、この講義は主として地方財政論を取扱う。詳細な理論的分析ではなく広範な制度的解説を行うことを心掛ける。具体的には、我が国の地方公共団体の歳入および歳出の仕組みを一通り教える。例えば、地方税は地公共団体が自ら徴収するが、地方譲与税、地方交付税、国庫支出金は国が徴収して地方公共団体に配付する。また、地方債は原則として投資的経費にしか充当できない。なお、この講義は経済学の基礎的知識を前提にする。			
授業の目的 地方財政に関する主要な制度を理解する（DPの「知識・理解」に対応）と共に、それらの制度が抱える課題を探究できるようになる（DPの「問題解決・課題探求能力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 地方財政に関する主要な制度を説明できる。 (2) 地方財政に関する主要な制度が抱える課題を分析できる。			
成績評価の方法と基準 期末課題および期末試験。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業方法】 資料を配付し、板書で補足する。 【授業計画】 (1) 地方公共団体 (2) 財政指標 (3) 歳入 (4) 地方税Ⅰ (5) 地方税Ⅱ (6) 地方税Ⅲ (7) 地方税Ⅳ (8) 地方譲与税 (9) 地方交付税Ⅰ (10) 地方交付税Ⅱ (11) 国庫支出金 (12) 地方債 (13) 歳出Ⅰ (14) 歳出Ⅱ (15) まとめ			
教科書・参考書等 なし。			
オフィスアワー 月曜日 3時限目。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 私語厳禁。			

ナンバリングコード B3ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312152) 金融論Ⅱ Monetary Economics Ⅱ	科目区分	時間割 後期金2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 藤原 敦志	関連授業科目	金融論Ⅰ	
	履修推奨科目	金融論Ⅰ、金融政策Ⅰ・Ⅱ	
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習			
授業の概要 この授業では、教科書に沿って、大きく、金融機関と金融市場、金融のマクロ的側面について学ぶ。具体的には、様々な金融市場、金融仲介機関以外の金融機関、資金循環と金融システム、金融政策と経済の実物面・金融面、金融システムの問題と金融危機、金融制度と公的介入・プルーデンス政策などについて学ぶ。適宜、世間で話題となっているホットトピックを「現実の金融問題」として紹介する。			
授業の目的 ・金融機関と金融市場を理解する。 ・金融のマクロ的側面を理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・金融機関と金融市場を説明できる。 ・金融のマクロ的側面を説明できる。			
成績評価の方法と基準 中間試験94点・期末試験94点、感想文12点の合計200点満点で評価する（ただし中間試験を受けていても期末試験を受験しなかった場合は成績評価の対象とはしない）。定期試験では、教科書からの出題は、重要語句や重要な論点を理論的に自分の言葉で説明できることなどを中心に要求する。現実の金融問題からの出題は、その出来事の流れを理解していること、またそれらと教科書の内容との関連性を説明できることなどを要求する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 基本的に教科書の要点を板書しながら説明する。現実の金融問題については、ビデオやパワーポイントで説明し、学生に感想を書いて提出してもらおう。			
第1回 ガイダンス、金融論Ⅰの復習 第2回・第3回 金融市場 第4回・第5回 金融機関（2）金融仲介機関以外の金融機関 第6回・第7回 資金循環と金融システム 第8回 中間試験 第9回・第10回 金融政策と経済の実物面・金融面 第11回・第12回 金融システムの問題と金融危機 第13回・第14回 金融制度と公的介入・プルーデンス政策 第15回 まとめ、予備日			
上記の内容に加えて、適宜、現実の金融問題を盛り込む予定である。			
【自学自習に関するアドバイス】 ・予習・復習として教科書の相当部分を熟読する ・現実の金融問題の際に配布した資料と教科書の関連性を考え、さらに詳しい情報を自分でも調べてみる			
教科書・参考書等 （教科書）内田浩史（2016）『金融』有斐閣、3400円（税別）。金融論Ⅱではこの本の第9章～第14章までを取り扱う予定である。			
オフィスアワー 最初の授業で周知する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 金融論Ⅰの続きとして授業を進めるため、金融論Ⅰを受講した後に金融論Ⅱを受講することを勧める。もし金融論Ⅰを受講せずに金融論Ⅱを受講する場合は、教科書の第1章～第8章を事前に読んでおくことを勧める。			

ナンバリングコード B3ECN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312112) 計量経済学Ⅱ Econometrics Ⅱ 計量経済学入門	科目区分	時間割 後期月5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 久松 博之	関連授業科目	統計学入門, 統計学, 計量経済学Ⅰ, マクロ経済学Ⅰ, マクロ経済学Ⅱ	
	履修推奨科目	統計学入門, 統計学, 計量経済学Ⅰ, マクロ経済学Ⅰ, マクロ経済学Ⅱ	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 計量経済学 (Econometrics) の理論とデータを用いた実証分析の方法について講義する。計量経済学Ⅰで学習した単回帰分析の理論を基礎にして、重回帰分析の理論とその応用を中心に説明する。			
授業の目的 計量経済学の考え方を身につけ、実際の経済データを使って計量経済分析が出来るようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 重回帰モデルと最小2乗法の考え方を理解する。多重共線性、関数型と推定式、ダミー変数とその応用、分布ラグモデルの考え方を理解する。 ・ 実際のデータを使って重回帰分析ができるようになる。 			
成績評価の方法と基準 期末試験 (100点満点) の得点, 課題レポートや宿題を課す場合はそれらの得点を合計した総合得点が60点以上を合格とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>【講義の方法】 基本的には講義ノートによる板書講義。必要に応じてテキストを参照する場合がある。テキストの説明では不十分だと思われる箇所は、配布資料を使って説明する。データを用いた分析を身に付けるために、Excelによる実習を行い実習課題を課す場合がある。必要に応じて適宜、宿題を課す場合がある。</p> <p>【講義計画】 第1回: 1. 授業ガイダンス, 単回帰モデルから重回帰モデルへ 第2回: 2. 重回帰モデルの推定と検定 第3回: 2. 1 最小2乗推定量の導出 第4回: 2. 2 最小2乗推定量の推定量特性 第5回: 2. 3 多重共線性 : 2. 4 重回帰分析の各種指標 第6回: 3. 関数形と推定式 3. 1 関数形の種類 第7回: 3. 2 実証分析の手順: 対数線形モデルの実際のデータへの応用 第8回: 4. ダミー変数 4. 1 定数項ダミー 第9回: 4. 2 季節ダミー 4. 3 係数ダミー 第10回: 5. 構造変化の検定 5. 1 ゼロ制約のF-検定 5. 2 構造変化のF-検定 第11回: 6. ラグ変数 6. 1 分布ラグモデル 6. 2 幾何級数型分布ラグモデル: コイック・ラグ 第12回: 6. 3 部分調整モデル 6. 4 適合的期待モデル 6. 5 コ克蘭・オーカット法 第13回: 7. 同時方程式モデル 7. 1 同時方程式モデルとは何か 7. 2 同時方程式バイアス 第14回: 7. 3 2段階最小2乗法 (2SLS) 第15回: 7. 4 同時方程式モデルを使った内挿と外挿 7. 5 実際のマクロ計量モデル</p> <p>期末試験</p>			

*テキスト出版社のWebサイトからExcelデータと処理方法を説明したpdfをダウンロードしてExcelによる計量経済分析の実習を行う関係で、テキストでは扱われていないトピック（部分調整モデル，適合的期待モデル，同時方程式モデル）を省略する場合がある。

【自学自習に関するアドバイス】

予習はしなくていいが，授業中取ったノートをもとに授業内容を復習すること。宿題を出す場合があるが，それは予習ではなくもっぱら復習の手助けになるものとする。

教科書・参考書等

教科書：『入門計量経済学』 山本拓・竹内明香著 新世社 定価2500円＋税

参考書：随時指示する。

オフィスアワー 火曜日 4限目

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1. 計量経済学Ⅰの単位を取得している方が望ましい。
2. 統計学入門，統計学の単位を取得している方が望ましい。
3. 質問がある場合は自筆のノートを持参すること。
4. スマホ・携帯のカメラ機能での板書撮影を禁止する。

ナンバリングコード B2ECN-bceE-3N-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332070) アジア経済論 Asian Economy	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2ECN	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 3N
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 李 素軒	関連授業科目	アジア社会論、アジア文化論	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 アジア地域の経済発展過程を歴史的に鳥瞰し、その特性を理解するための理論や概念を紹介・解説する。また、アジア金融危機の経緯とその後の地域経済・金融協力の動きを検討し、今後の方向性について議論する。			
授業の目的 (1) アジア経済論の基礎知識を習得する。(DPコード: b, e) (2) 多様な理論的観点に対して、それらを正しく理解し、批判的に考える力を身に付ける。(DPコード: c)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) アジア諸国の経済発展過程に対して理論的概念を的確に使いながら説明することができる。 (2) 1970年代以降のアジア諸国な急速な経済成長および1990年代末のアジア金融危機をめぐる多様な理論的観点を正確に理解し、それを批判的に検討した上、自分の考えを述べることができる。			
成績評価の方法と基準 平常点(質問カード等) 30% + 授業発表又は期末レポート70%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回: シラバスを用いた授業ガイダンス-アジア経済へのアプローチ 第2回: グローバル・ヒストリーから見たアジア-中華文明と「大分岐」 第3回: 東アジアの経済成長1-「東アジアの奇跡」とキャッチアップ工業化(1) 第4回: 東アジアの経済成長1-「東アジアの奇跡」とキャッチアップ工業化(2) 第5回: 東アジアの経済成長2-アジア金融危機と「奇跡」の再考(1) 第6回: 東アジアの経済成長2-アジア金融危機と「奇跡」の再考(2) 第7回: 東南アジア諸国の経済成長-「緑の革命」と脱農業化(1) 第8回: 東南アジア諸国の経済成長-「緑の革命」と脱農業化(2) 第9回: 中国の社会主義市場経済(1) 第10回: 中国の社会主義市場経済(2) 第11回: アジア諸国の貧困と格差問題(1) 第12回: アジア諸国の貧困と格差問題(2) 第13回: アジア地域の経済・金融協力(1) 第14回: アジア地域の経済・金融協力(2) 第15回: 復習、学生発表又は討論			
教科書・参考書等 教科書 『現代アジア経済論 -- 「アジアの世紀」を学ぶ』、遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太編、有斐閣ブックス、2018年、定価 2,916円 参考書 『現代アジア経済論』、原洋之介著、岩波書店、2001年、2200円(税抜) 『キャッチアップ工業化論-アジア経済の軌跡と展望-』、末廣昭著、名古屋大学出版会、2000年、3500円(税抜) 『新興アジア経済論-キャッチアップを超えて』、末廣昭著、岩波書店、2014年、2400円(税抜)			
オフィスアワー			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回教科書及び参考文献の関連する部分を読んでおくことを勧めます。授業が終わる10-15分前に質問カードを配布し質問・コメント等を書いてもらいます。教員へのフィードバックなどに積極的に活用してください。			

ナンバリングコード B3ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312420) 応用ミクロ経済学 Applied Microeconomics	科目区分	時間割 前期火1	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 天谷 研一	関連授業科目	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、数理経済学	
	履修推奨科目	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 ゲーム理論の基礎を講義します。 社会は多様な人々によって構成され、人々の間には利害関係があり、個々人の行動はお互いに影響を及ぼしあっています。このような社会では、人々は自分の行動が他人にどう影響するか考えたり、他人がどのような行動をするか予想したりしながら意思決定をする必要があります。このような「戦略的な意思決定」、すなわち「駆け引き」を分析することによって社会への理解を深めようとするのがゲーム理論という学問です。 駆け引きを行うのは個人だけではありません。ビジネスの場では企業同士、政治の場では政党同士、国家同士が駆け引きを行っています。現代の社会や経済を理解するにはゲーム理論的な視点が不可欠といっても過言ではないでしょう。 この講義では、経済問題の分析などの応用例も取り入れながら、ゲーム理論の基本的な考え方を紹介していきます。			
授業の目的 経済主体が相互依存関係下でいかなる意思決定を行うか、ミクロ経済学とゲーム理論の観点から理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・ 戦略形ゲーム・ナッシュ均衡・展開形ゲーム・部分ゲーム完全均衡・不完全情報などのゲーム理論の基礎概念がどのようなものであり、どのような経済問題の分析に用いることができるのか説明できる。			
成績評価の方法と基準 宿題 (30%)、期末試験 (70%) により評価します。詳しくは初回授業時に指示します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 授業は主に板書およびプロジェクタ投影を使用した講義形式で行います。授業中に適宜、仮想取引などの体験実習や問題演習を行います。また宿題として演習問題を課します。 予習は必ずしも必要ではありませんが、毎回復習してわからないことをなくすことと、宿題を解いて理解を深めることが必要となります。			
第1回 ゲーム理論とはどんな学問か 第2～4回 戦略形ゲーム・ナッシュ均衡とその応用 第5～7回 時間を通じたゲーム 第8～9回 長期的関係と協調 第10～12回 不完備情報のゲームとオークション 第13～14回 時間を通じた情報伝達 第15回 まとめ			
授業計画は、受講生の理解度をみて必要があれば変更する場合があります。			
教科書・参考書等 天谷研一 (著) 『図解で学ぶゲーム理論入門』、2011年、日本能率協会マネジメントセンター、1500円＋税 岡田章 (著) 『ゲーム理論・入門 (新版)』、2014年、有斐閣、1900円＋税			
オフィスアワー 月曜4校時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 1. 基礎的なミクロ経済学の知識 (効用関数、需要と供給など、ミクロ経済学Ⅰで学習した程度) があることが望ましいですが、まだ学習していない場合でも、必要に応じて多少自習する意欲があれば、履修可能です。 2. 授業内容は連続しているため、前回までの内容をしっかり理解していないとついていけなくなります。 3. その他の注意事項は、初回授業時に指示します。			

ナンバリングコード B3ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312430) 応用マクロ経済学 Applied Macroeconomics	科目区分	時間割 後期月2	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 宮崎 浩一	関連授業科目	ミクロ経済学I、ミクロ経済学II、 マクロ経済学I、マクロ経済学II、国際経済学	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 マクロ経済学I、IIでカバーできなかったマクロ経済学の発展的なトピックについて講義します。具体的には、開放マクロ経済学の基礎、経済成長理論、雇用と失業、資産価格の決定について講義します。			
授業の目的 世の中には日本や諸外国の経済状況や経済政策に関するニュースで溢れています。この講義を受講することでそのようなニュースを正確に捉えることができるようになり、経済はどのように動いているのかを自分で判断するのに役に立つでしょう (DPの「知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識」)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・為替レートとは何か説明でき、その決まり方について説明できるようになる。 ・どのような要因で豊かな国や貧しい国が存在するのか説明することができ、貧しい国の経済を発展させるためにはどうすれば良いか考えを述べるようになる。 ・どうして失業者がいなくならないのか、そのメカニズムを説明することができる。 ・資産価格がどのようにして決まるのか、そのメカニズムを説明することができる。 			
成績評価の方法と基準 基本的には、3回のクラス内小テスト (各20%) と期末試験 (40%) で判断します。小テストは各トピックが終了した次の講義内で行います。また、ボーナスとして課題をいくつか出すかもしれません。この成績評価の方法は、受講状況に応じて変える可能性があります。詳細は初回の講義の時に説明します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 講義はスライド、ハンドアウトと板書を使用する予定です。講義前には、当日の講義のハンドアウトをホームページ(Moodle上に作成予定) 上で配布する予定です。 提出不要の練習問題がホームページ上で配布されるので、講義の復習と小テスト・期末試験の準備に役立ててください。以下に講義計画を挙げます。なお、以下の講義計画は進行状況により変更する可能性があります。			
第 1回: ガイダンス、為替レートの決まり方 (1) 第 2回: 為替レートの決まり方 (2) 第 3回: 為替レートの決まり方 (3) 第 4回: 為替レートの決まり方 (4) 第 5回: 小テスト (1)、経済が成長するメカニズム (1) 第 6回: 経済が成長するメカニズム (2) 第 7回: 経済が成長するメカニズム (3) 第 8回: 経済が成長するメカニズム (4) 第 9回: 小テスト(2)、雇用と失業の決まり方 (1) 第10回: 雇用と失業の決まり方 (2) 第11回: 雇用と失業の決まり方 (3) 第12回: 雇用と失業の決まり方 (4) 第13回: 小テスト(3)、資産価格の決まり方 (1) 第14回: 資産価格の決まり方 (2) 第15回: 資産価格の決まり方 (3) 第16回: 期末試験			
【自学自習に関するアドバイス】 <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容は積み上げ式なので、わからない箇所が出てきたら、なるべく早く疑問を解決するように心がけてください。後回しにするとわからない部分がどんどん増えてしまいます。解決方法としては、いろいろとあると思いますが、講義担当者やよく理解しているクラスメートに聞くのが手取り早いと思います。 ・提出不要の練習問題が出ますので、それを利用してしっかり復習してください。小テストや期末試験前にまとめてやるのではなく、配布されたらできるだけ早めに手を付けましょう。 ・経済ニュースを読む習慣を付けましょう。この講義で学んだことを利用してニュースに書かれてあることが理解できるかどうか、チェックしてみましょう。 			

教科書・参考書等

教科書はありません。

ただし、講義は

平口良司、稲葉大『マクロ経済学：入門の「一歩手前」から応用まで』有斐閣ストゥディア、2,000円＋税をもとに行われます。その他、参考書として

- ・伊藤元重『マクロ経済学』第2版、日本評論社、2,800円＋税
- ・福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門』（第5版）、有斐閣アルマ、2,200円＋税
- ・マンキュー『マクロ経済学1：入門編』（第4版）、東洋経済新報社、3,800円＋税
- ・斎藤誠・岩本康志・太田聡一・柴田章久『マクロ経済学』有斐閣、3,900円＋税を挙げておきます。

オフィスアワー 毎週月曜日14時から16時に、南2号館3階の研究室で対応します。それ以外は事前にメールでアポを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・授業中、私語は厳禁ですが、質問やコメント等の発言は積極的にしてください。講義が楽しくなります。また、あなたの質問がみんなの理解を深めることとなります（あなたの持つ疑問は、大抵、他の受講者も疑問に思っています）。
- ・小テストの追試は原則として行わない予定ですので、忘れないように受験してください。
- ・授業時間中のスマホや携帯電話の使用は禁止します。

ナンバリングコード B3ECN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 313264) 福祉経済論 I Welfare Economics I	科目区分	時間割 前期火3	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 加藤 美穂子	関連授業科目	福祉経済論Ⅱ、社会政策、経済政策、財政学	
	履修推奨科目	福祉経済論Ⅱ、社会政策、経済政策、財政学	
学習時間 講義90分×15回 +自学自習			
授業の概要 日本は第2次世界大戦後、豊富な若年者人口と高い経済成長率といった好条件の下で、社会保障制度などを中心に福祉国家システムを構築・拡充してきました。しかし21世紀の現在、少子高齢化や人口減少、グローバルな国際競争の激化による経済成長の低迷など、日本の経済社会を取り巻く環境は大きく変化しており、20世紀後半の好条件の下で構築されてきたシステムの再編が避けがたくなっています。 特に、年金や医療の社会保険制度においてその持続可能性が危ぶまれる状況であり、それらを21世紀の条件下で持続可能な制度へと改変していくことが重要な課題となっています。 この授業では、上記のような日本経済の構造変化と福祉国家システムの財政的課題を踏まえながら、日本の福祉国家システムの基本構造と特徴について学びます。特に、社会保障制度の中軸をなす皆保険・皆年金の社会保険の諸制度に焦点をあて、その枠組みと現在直面している課題について検討します。			
授業の目的 公的年金や公的医療保障は、日本の社会保障システムの中心をなすものであり、今や人々の生活に不可欠なものとなっています。しかし、今後さらなる高齢社会の深化が予測される中で、これらの社会保険制度は持続可能性を危ぶまれる状況にあり、21世紀の日本の経済社会環境に適したシステムへの改変が模索されています。 この授業では、第1に、資本主義と民主主義をベースとする経済社会において福祉国家が果たす役割と、日本の社会保障システムの理念とデザインを理解することを目指します(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応)。第2に、日本の社会保障システムについて、年金・医療等の社会保険を中心に基本構造と課題を理解し、今後のありかたを多角的に検討するために必要不可欠な知識の習得と論理的思考力の育成を目的とします(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 市場経済と民主主義の経済社会における福祉国家の役割について説明できる。 (2) 日本の社会保障システムの理念と体系について説明できる。 (3) 日本の公的年金システムの基本構造を説明できる。 (4) 日本の公的年金システムの財政方式と財政調整メカニズムを説明できる (5) 日本の皆保険システムの基本構造を説明できる。 (6) 日本の公的医療保障システムの財政調整メカニズムを説明できる。 (7) 高齢社会の深化が各種社会保険制度にもたらす影響を説明できる。			
成績評価の方法と基準 小課題・宿題(30%) + 期末試験(70%)によって評価します。 小課題・宿題は、Moodleを通じて提出してもらいます。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【講義及び学習の方法】 ・授業は基本的にテキストに沿って進めます。授業時にテキストを必ず持参してください。また、適宜、他の参考文献や政府資料、新聞記事、ニュース映像などを補助教材として使用し、それらを用いて説明を行います。 ・必要に応じて、パワーポイントや板書によってメモを示します。口頭でのみ行った説明と共に書き取ってください。 ・授業内に、予復習のための課題を出題します。必ず期日までに提出してください。それらの課題に取り組んでいることを前提にして、以降の授業を進めます。 ・授業に関する連絡や小課題・宿題の提出は、Moodleを通じて行います。詳細は、授業内で指示します。			
【授業計画】 第1回 : ガイダンス 第2回 : 日本の社会保障システムの理念 日本国憲法と福祉国家、日本型福祉国家、社会保障システムの経済基盤 第3回 : 社会保障システムの全体像(1) 第4回 : 社会保障システムの全体像(2) 第5回 : 社会保険 : 社会保険と民間保険 第6回 : 年金システム(1) 意義と役割、日本における公的年金の形成史①			

第7回 : 年金システム(2) 日本における公的年金の形成史②
第8回 : 年金システム(3) 日本の年金システムの仕組み
第9回 : 年金システム(4) 公的年金システムの課題
第10回 : 医療保障システム(1) 経済成長と皆保険システム
第11回 : 医療保障システム(2) 分立的な制度設計と財政調整①
第12回 : 医療保障システム(3) 分立的な制度設計と財政調整②
第13回 : 医療保障システム(4) アメリカの医療保障システム
第14回 : 医療保障システム(5) 日本の公的医療保障システムの課題
第15回 : 授業のまとめ

【自学自習について】

・授業の予習・復習として、テキストと授業内の配布資料に必ず目を通してください。
・授業後には、テキストで確認した要点や口頭での説明、パワーポイントや板書の内容を、ノートに整理しておいてください。

教科書・参考書等

教科書 :

木下武徳ほか編 (2017) 『日本の社会保障システム-理念とデザイン』、東京大学出版会

参考書 :

渋谷博史著、『改訂版 福祉国家と地域と高齢化』、2014年、ISBN978-4-7620-2466-5 C3333

その他、授業内に適宜紹介します。

オフィスアワー 水曜日12:00-13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・私語厳禁
・授業で学ぶ内容への理解を深めるために、普段より、新聞やニュースに関心を持ち、見聞きしておくことを推奨します。

ナンバリングコード B3ECN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 313265) 福祉経済論Ⅱ Welfare Economics Ⅱ	科目区分	時間割 後期末1	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 加藤 美穂子	関連授業科目	福祉経済論Ⅰ、社会政策、経済政策、財政学	
	履修推奨科目	福祉経済論Ⅰ、社会政策、経済政策、財政学	
学習時間 講義90分×15回 +自学自習			
授業の概要 日本は第2次世界大戦後、豊富な若年者人口と高い経済成長率といった好条件の下で、社会保障制度などを中心に福祉国家システムの構築・拡充を図ってきました。しかし、21世紀の現在、少子化と高齢化と人口減少、グローバルな国際競争の激化による経済成長の低迷と産業・雇用構造の変化など、日本の経済社会を取り巻く環境が大きく変わる中で、福祉国家システムの再編が避けがたい状況となっています。 この授業では、少子高齢化の進行と経済構造が変化する中で重要性を増している社会保障の分野として、介護保険制度、公的扶助、各種社会福祉（児童福祉など）について理念と制度的枠組み、課題を検討していきます。 授業を進めるにあたっては、これらの政策に関する受講者の見識と理解を深めるために、授業内容に関連する政府の政策資料や新聞記事やニュース映像なども紹介します。受講生に、意見や感想を求めることもあります。			
授業の目的 この授業では、日本の福祉国家システムと社会保障制度の基本構造を確認したうえで、(1)高齢化に伴って増加する介護ニーズに対応するための介護保険と高齢者福祉、(2)日本の社会保障体系において最後のセーフティーネットとしての役割を担う公的扶助(生活保護制度)、(3)社会的な保護を必要とする子どもへの救済や子育て世帯への支援に関する児童福祉などについて、その理念と制度的枠組みを理解することを目指します(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。そして、日本の経済社会が変化する中でこれらの政策の役割がどのように変化してきたかを理解し、現在の課題について論理的・多角的に検討する思考力の育成を目指します(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1)日本の社会保障制度の体系と特徴を理解し、それらを説明できる。 (2)公的扶助制度の基本原理と仕組み、扶助の特徴を理解し、説明できる。 (3)高齢者福祉と介護保険について、基本的な仕組みと特徴を理解し、高齢社会の深化によって生じる課題を説明できる。 (4)児童福祉の基本理念と主要な制度の仕組み、財政構造について理解し、説明できる。 (5)障害者福祉の基本理念と仕組みについて理解し、説明できる。			
成績評価の方法と基準 授業内の小課題・宿題(30%)、期末試験(70%)により評価します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業の方法】 ・授業は基本的にテキストに沿って進めます。授業時にテキストを必ず持参してください。また、適宜、他の参考文献や政府資料、新聞記事、ニュース映像などを補助教材として使用し、それらを用いた説明を行います。 ・受講者に、授業内に意見や感想を求めることがあります。積極的に発言してください。 ・必要に応じて、パワーポイントや板書によってメモを示します。口頭でのみ行った説明と共に書き取ってください。 ・授業内に出された課題は、必ず期日までに提出してください。課題への取り組みを前提として、授業を進めていきます。			
【授業計画】 第1回：ガイダンス 第2回：福祉国家と市場経済 第3回：日本の社会保障システムの全体像(1) 第4回：日本の社会保障システムの全体像(2) 第5回：高齢者福祉と介護保険制度(1) 介護保険制度の目的と創設の経緯 第6回：高齢者福祉と介護保険制度(2) 介護保険制度の仕組み 第7回：高齢者福祉と介護保険制度(3) 介護保険制度の財政 第8回：高齢者福祉と介護保険制度(4) 地域包括ケアシステム 第9回：社会福祉の理念 第10回：公的扶助(1) 第11回：公的扶助(2)			

第12回：児童福祉 保育政策(1)
第13回：児童福祉 保育政策(2)
第14回：児童福祉 保育政策(3)
第15回：授業のまとめ

【自学自習について】

- ・授業の予習・復習として、テキストと授業内の配布資料を読んでおいてください。
- ・授業後には、テキストで確認した要点や口頭での説明、パワーポイントや板書の内容を、ノートに整理しなおしてまとめておいてください。
- ・授業に関する連絡や小課題・宿題の提出は、Moodleを通じて行います。詳細は、授業内に指示します。

教科書・参考書等

教科書：

木下武徳ほか編（2017）『日本の社会保障システム-理念とデザイン』、東京大学出版会、2500円＋税

参考書：

渋谷博史著、『改訂版 福祉国家と地域と高齢化』、2014年、ISBN978-4-7620-2466-5 C3333

オフィスアワー 水曜日12：00-13：00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

普段より、新聞やニュースに関心を持ち、見聞きしておくことを推奨します。

ナンバリングコード B3ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 313191) 国際経済学A International Economics A	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 斉藤 宗之	関連授業科目	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、応用ミクロ経済学、 経済数学入門、公共経済学	
	履修推奨科目	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、応用ミクロ経済学、 経済数学入門	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 国際経済学は、大きく分けて、モノ・サービスの国境を越えた取引を扱う「国際貿易論」とカネの国境を越えた取引を扱う「国際金融論」に分けられます。本講義では、国際貿易理論の初歩を講義し、初学者でもモノ・サービスの国際取引に関するさまざまな諸問題について経済学的見地から解釈できるようになるよう事例を踏まえながら講義をします。			
授業の目的 国際貿易に関わる諸問題について、経済学的に考察していくことを目的としています。そのために、経済学の理論に関わる概念やそれに関連する知識についても学びます。この講義を受講することで、国際経済問題に関する広範な知識を習得すると同時に、抽象と具体を行き来する思考力を獲得することができます。(DPの知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 国際貿易理論の基礎を習得し、実際の経済現象を説明できる。 2) 現実の国際経済問題について、経済学的にどのように解釈できるのかを自発的に考えられ、論理的に自分の意見を述べるができる。			
成績評価の方法と基準 宿題25%、小テスト25%、テスト50%により評価します。より詳細には、初回授業において指示します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 授業は、スライドと板書による講義形式で行います。なお、授業についての学生の理解、授業の進捗状況によっては、計画が変更される場合があります。また、授業中に適宜、問題演習を行います。 予習は必ずしも必要ではありませんが、講義内容でわからない点や、復習しているときに疑問点が生じた場合は、質問してわからないことをなくすようにすること、宿題を解いて講義内容の理解を深めるように努めてください。 第1回：イントロダクション 第2回：ミクロ経済学の復習 第3回：自由貿易について 第4回：貿易制限の経済効果(1)－小国のケース 第5回：貿易制限の経済効果(2)－大国のケース 第6回：リカード・モデルと自由貿易の利益 第7回：生産要素供給と貿易パターン(1) 第8回：生産要素供給と貿易パターン(2) 第9回：戦略的貿易政策 第10回：ダンピングとセーフガード 第11回：地域貿易協定(1)－世界貿易体制における地域貿易協定 第12回：地域貿易協定(2)－地域貿易協定の経済効果 第13回：貿易と環境(1)－貿易による環境への効果 第14回：貿易と環境(2)－貿易政策と環境政策の効果 第15回：まとめ			
教科書・参考書等 『国際経済学をつかむ 第2版』、石川城太他、有斐閣、2013年、2200円＋税、を教科書として使用します。 また、講義資料を配布します。また、講義の参考となる文献としては、以下の文献になります。 『国際経済学』、秋葉弘哉編、ミネルヴァ書房、2010年、3800円＋税 『国際経済学』、阿部顕三・遠藤正寛、有斐閣、2012年、2400円＋税 『国際経済学 国際貿易編』、中西訓嗣、ミネルヴァ書房、2013年、3500円＋税			
オフィスアワー 講義終了後			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 履修上の注意事項は初回授業で説明します。			

ナンバリングコード B3ECN-bacE-30-Lb2 授業科目名 (時間割コード: 313121) 経済統計A Statistics for Economics A	科目区分	時間割 前期木3	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bacE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lb	単位数 2	
担当教員名 横山 佳充	関連授業科目	統計学 経済学入門	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 経済のニュースなどを見ると様々な形で経済データの変化が伝えられている。本講義においては実際に経済において使用されている経済指標について講義することで、現実の経済の動向について判断する能力を養成することを目的とする。特に「経済統計A」では少し理論的な側面から経済指標について取り扱い、日々の経済データの背景にある考え方について学ぶ。			
授業の目的 経済データなどの指標には、経済学的、統計学的そして制度的な背景があります。このことは、単純に漫然とニュースを見ているだけではつかめないものもあります。本講義では理論的な背景を含め経済を学ぶ学生として必要な知識を習得することを目的とします。この結果、経済データに関する数量的な取り扱いに関する事柄に対してスキルアップするはずです。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済データの理論的背景について理解を高めることができる ・ 数量データの取り扱いについてより習熟する 			
成績評価の方法と基準 出席、レポートおよび期末試験。得点の比重は出席とレポート合わせて30%に対し、後期試験70%で行う。なお、授業中にも関わらず、許可なくスマホ等を使用した場合、成績評価対象外とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 プロジェクターを用いた投影を含め、板書を用いて授業を行う。 レポートは表計算ソフトウェアによるレポートを要求する場合がある。ただし、授業中にコンピュータの使用に関する演習は行わない予定である。事前に教材となるレジュメ等をイントラネット上またはmoodle上で配布するので学生は必要箇所を確認印刷して準備しておくこと。 具体的な方法については第1回目の授業で確認します。			
<ul style="list-style-type: none"> (1)-(2) センサス・データ (3)-(4) 標本調査 (5)-(6) 時系列データ (7)-(8) 指数 (9)-(10) 賃金と労働市場 (11)-(12) 家計 (11)-(12) 景気変動 (13)-(15) 国民経済計算 			
レポート提出に関しては3回程度を予定しています。またmoodleを用いた小テストも行う場合があります。			
教科書・参考書等 基本的には使用しません。説明に関しては配布物等を用意する予定です。 以下は参考書です。 『経済統計入門』、中村・新家・美添・豊田、東京大学出版会 『経済統計』、廣松、高木、佐藤、木村、新世社 『テキストブック・経済統計』、中島・北村・木村・新保、東洋経済新報社 『統計学(第2版)』、森棟公夫、新世社 その他、必要に応じて授業中に紹介します。			
オフィスアワー 火曜日4時限目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業のレジュメ等を用意する場合がありますので、各自で印刷してください。具体的な方法は第一回目の授業において説明します。なお、授業中、許可なくスマホ等の使用を禁止します。			

ナンバリングコード B3STT-bceE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 313122) 経済統計B Statistics for Economics B	科目区分	時間割 後期火1	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3STT	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 大野 拓行	関連授業科目	統計学入門、統計学、計量経済学、 情報リテラシー、マクロ経済学	
	履修推奨科目	経済統計A	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 本講義はこれまで学んできた統計学、マクロ経済学、計量経済学の知識をもととした経済の実証分析についての講義である。このため統計学、マクロ経済学、計量経済学を既に単位修得済みであることが望ましい。また、情報処理能力が必要であり、Excelの基本的操作に習熟しておくことが要求される。			
授業の目的 ・代表的な統計的分析手法を修得する。 ・Excelの技能を上達させる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・Excelのピボットテーブル機能を利用できるようになる。 ・寄与度分析ができるようになる。 ・ローレンツ曲線とジニ係数を用いた分析ができるようになる。 ・クロス集計表による分析ができるようになる。 ・相関・回帰分析ができるようになる。 			
成績評価の方法と基準 実習における演習、課題レポート、期末試験による。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 (1)統計解析の基礎 1 (2)統計解析の基礎 2 (3)統計解析の基礎 3 (4)寄与度分析 (5)ローレンツ曲線とジニ係数 (6)ピボット・テーブル (7)クロス集計表による分析 1 (8)クロス集計表による分析 2 (9)相関分析 (10)単純回帰分析 1 (11)単純回帰分析 2 (12)重回帰分析 1 (13)重回帰分析 2 (14)重回帰分析 3 (15)まとめ 【自学自習に関するアドバイス】 授業はふりかえり→課題の説明→実習で進めていく。 教員による説明は分析方法と実習における注意点の解説が中心となる。			
教科書・参考書等 授業中の資料を配付し、またMoodleに掲載します。			
オフィスアワー 最初の授業においてアナウンスします。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ この講義はExcelが使えることを前提とします。 また、Moodleを利用して授業を進めます。			

ナンバリングコード B3ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 313176) (特)公共経済学 Special Lecture 公共経済学	科目区分	時間割 前期水2	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 福村 晃一	関連授業科目	経済政策、地域経済学、財政学、 マクロ経済学I, II	
	履修推奨科目	ミクロ経済学I, II、経済数学入門	
学習時間 講義90分×15回+予習・復習などの自学自習			
授業の概要 ミクロ経済学の応用分野である、公共経済学における様々な理論上の概念について主に講義する。それにより、ミクロ経済学で学習した手法を応用して、現実の社会における様々な経済現象を解釈するために必要な能力を養成する。			
授業の目的 現実の社会における様々な経済現象やそれに対応した政策を、経済学の立場から分析するために必要な理論上の概念やそれに関連する知識について学ぶことを目的としている。この講義を受講することにより、官庁・企業などで政策や業務計画などの企画・立案・推進・評価などを行うために必要な、公共経済学に関する基礎的な知識や考え方を習得することができる。(DPの知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 公共経済学で用いられている概念を理解し、現実の経済現象に当てはめて説明できるようにする。 2. 公共経済学で用いられている概念を活用し、現実の経済活動から生じる様々な問題を、経済学を用いて解決する方策を考えられるようにする。			
成績評価の方法と基準 次の方法を組み合わせて評価する。期末試験(70%)、レポート(20%)、授業中提出物(10%)。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>【講義の方法】</p> <p>以下の授業計画に基づいて板書とスライドを基本とした講義を行う。なお、実際の授業の進捗状況によっては以下の計画が変更される場合があるが、その際は周知する。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明、公共経済学のイントロダクション 2. ミクロ経済学の復習 3. 厚生経済学の基本定理・パレート最適 4. 課税の分析1 5. 課税の分析2 6. 寡占・独占 7. 外部性 8. 公共財1 9. 公共財2 10. 費用便益分析 11. 地方分権 12. 社会保険 13. 所得再分配と社会厚生 14. 財政運営と世代 15. まとめ <p>【自学自習について】</p> <p>授業のスライドを講義前に配布する予定なので、それを活用してください。また、適宜練習問題をスライドなどで示すので、式展開や結果の解釈、専門用語の定義などを独力で説明できるようにすること。面倒がらずに、自分で手を動かして確認することが定着につながります。 理解を深めるには、社会で今問題になっていることと、それを解決する方策について関心を持つことが重要です。</p>			
教科書・参考書等 講義資料をもとに講義を行うため、教科書は購入する必要はない。ただし、講義内容は「公共経済学」、林正義・小川光・別所俊一郎、有斐閣アルマ、有斐閣、2010年、2,300円+税、をもとにしているため、必要であれば購入すること。			
オフィスアワー 初回授業時に連絡する。質問がある場合は、内容を具体的に、もしくは事前にメールで連絡する、などしてもらえれば、よりの確に回答できると思います。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 試験前だけ勉強すればよいという考えは捨てましょう。			

ナンバリングコード B3ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 313253) (特)金融政策 I Special Lecture 金融政策I	科目区分	時間割 前期月3	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 海野 晋悟	関連授業科目	経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学、 金融論、計量経済学	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
<p>授業の概要</p> <p>学生の皆さんは、現在、どのような金融政策が行われているか知っていますか？金融政策は、どこの組織が実施しているか知っていますか？金融政策の影響は、我々の生活にどのような影響を与えるか、与えそうか知っていますか？現在、金融政策の実施主体は、ある目標を達成すべく、本当にいろんなプログラムを実行しています。しかし、目標は達成できていません。さてここまでで、少し金融政策に興味をもってもらえたでしょうか。</p> <p>金融政策IIは、金融政策が効果をもって経済に影響を与えるメカニズム（理論）と実際に行われた金融政策とそれがもたらした効果（現実）を学びます。さらに、金融政策の具体的な実施方法について学習します。金融政策Iでは、伝統的金融政策を学び、金融政策IIでは、非伝統的金融政策という概念を学びます。何が伝統で、何が非伝統かの学習を通して、金融政策の大胆さと繊細さを実感してもえます。金融政策IIまで履修すると「金融政策」という講義自体は、コンプリートです。金融政策Iの受講前後に、経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学、金融論、計量経済学を受講すると金融政策で得られた知識・考え方が役に立つはずで。</p>			
<p>授業の目的</p> <p>日々の金融政策の動向や金融政策の関係者の発言は、メディアで大きく注目されます。金融政策の実施内容を理解し、背後の経済的メカニズムを理解できれば、これから経済がどう変わっていくかを見通せるようになります。日本経済が抱える課題に対して関心を持ち、金融政策を含めた処方箋を学生のみなさんが考え抜けるように講義と議論を展開します。</p>			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 金融政策の意義、実施方法が説明できる (2) 金融政策の理論・効果を説明できる (3) IS-LMモデルを用いて、過去・現在の金融政策の分析を行うことができる			
<p>成績評価の方法と基準</p> <p>中間試験(30%) 期末試験(40%) 課題提出(15%) 講義参画度(15%) で評価します。講義参画度とは、講義中の発言を促す場面を作ります、その時に積極的に発言した者を評価することです。</p>			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>授業計画</p> <p>金融政策と経済の関係</p> (1) イントロ (2) 経済データで見る日本経済 (1) 高度成長、バブル経済 (3) 経済データで見る日本経済 (2) バブル経済崩壊、失われた20年、アベノミクス <p>金融政策の実施主体・日本銀行</p> (4) 日本銀行の組織と業務 (5) 金融政策の目的と手段 (6) 金融政策の波及経路 (1) 金利チャネル、バランスシート・チャネル (7) 金融政策の波及経路 (2) 為替チャネル、リスクテイキング・チャネル <p>=====</p> (8) まとめ+中間試験 <p>=====</p> (伝統的) 金融政策の理論：IS-LMモデル (9) IS-LM 導入 (10) IS-LM (伝統的) 金融政策 (1) (11) IS-LM (伝統的) 金融政策 (2) と特殊なケース (2) (12) IS-LM 特殊なケース (2) (伝統的) 金融政策の効果 (13) バブル経済までの金融政策の効果 (14) バブル崩壊後99年までの金融政策の効果 <p>(伝統的) 金融政策の限界：非伝統的金融政策へ (15) 先進各国に10年早く非伝統的金融政策の世界へ</p>			

学習方法

事前に配布する資料（穴あき状態）を埋めながら講義を進めていきます。また学期中、何度も金融政策や日本経済に関連する日本経済新聞の記事を紹介・配布します。必ず、講義後には丁寧に読みきるようにしてください。

復習：教員の講義を自分で再現してみてください。ハンドアウトに書き込んだメモなどの導入のタイミングと解説が重要です。

教科書・参考書等

特定の教科書は指定しません。

参考書

酒井・榊原・鹿野 『金融政策』 有斐閣アルマ 2004

白川 『現代の金融政策』 日本経済新聞社 2008

翁 『日本銀行』 ちくま新書 2013

日本銀行ホームページ 「日本銀行を知る・楽しむ」

オフィスアワー 火曜日 2時限目

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義内容の理解・修得には、毎回出席することが重要です。継続が非常に重要です。また、不明な点をそのままにせず、疑問・質問を解消することも非常に大切です。少しの勇気で、担当教員・海野に喋りかければ、それらは間違いなく解消されます。

ナンバリングコード B2BSN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322170) 人的資源管理論A Human Resource management A	科目区分	時間割 後期月5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 青木 宏之	関連授業科目	人的資源管理論B	
	履修推奨科目	経営組織論A、経営学原論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 人的資源管理論は、報酬管理、業務管理、キャリア管理、雇用管理、労使関係管理などの5つの領域からなりたっており、企業内における人材の問題全般と関わる。この人的資源管理論Aの授業では、人材という経営資源の効果的な活用のあり方を理解するために、主要領域のうち、とくに報酬管理と業務管理について検討する。具体的な制度の仕組みと機能、制度間の相互関係などに注目しながら解説を進める。			
授業の目的 人的資源管理の主要領域のうち、とくに報酬管理、業務管理に関する制度、運用実態、それらに影響を与える社会・経済的背景を理解することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
この授業の目的は以下の3点である。 ・日本企業の報酬管理の歴史を説明することができる。 ・日本企業の業務管理の特徴について説明することができる。 ・日本における1990年代以降の成果主義化に関して、制度的実態およびそれをもたらした社会的背景について説明することができる。			
成績評価の方法と基準 期末テストで成績評価を行う。 リアクションペーパー、小テストなどで加点を行うことがある。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 以下は、授業の進度によって変更することがある。 (1) 人的資源管理論の学び方 (2) 賃金の決め方 (3) 賃金体系史 (4) 賃金の上がり方 (5) 賃金の経済理論 (6) 人事制度 (7) 人事評価 (8) 大卒ホワイトカラーの人的資源管理 (9) 賃金、昇進の人的資源管理：国際比較 (10) 開発技術者の仕事管理：組立産業 (11) 開発技術者の仕事管理：装置産業 (12) 成果主義 (13) 成果主義と業績管理 (14) 業績管理と生産管理 (15) 講義のまとめ			
【自学学習の方法】 授業中に関連文献、参考資料を指摘します。その指示に従って予習・復習をすること。とくに、労働政策研究・研修機構や厚生労働省のHPでは、参考文献や資料を入手することができるので、積極的に活用してほしい。			
教科書・参考書等 【参考書】 佐藤博樹・藤村博之・八代充史著 (2011)『新しい人事労務管理第4版』有斐閣アルマ。2000円			
オフィスアワー 木曜三時間目 必ずメールでアポイントを取ること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ・参考書を購入しなくても授業に出席すれば十分な理解を得ることはできる。 ・正規の手続きによらない定期試験の成績調査には応じない。 ・パワーポイントのシートは配布しないので、授業中の指示に従ってノートを作成すること。 ・人的資源管理論は、経営学、経済学の諸領域と密接に関連しています。詳しくはその都度指摘しますが、多様な関連性を意識して学ぶことが大切です。			

ナンバリングコード B3BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 320103) 経営学史 History of Business Administration	科目区分	時間割 後期金2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 山口 尚美	関連授業科目	企業倫理	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回＋自学自習			
授業の概要 経営学は、19世紀末から20世紀初頭に掛け、工業化の急速な進展と企業規模の拡大を背景に、主としてドイツとアメリカにおいて登場した学問である。 ドイツ経営学は、商科大学の中心科目を懸賞論文によって模索する中で生成され、度重なる学問的な方法論争を経て、理論的性格を強めながら発展していった。ドイツ経営学は、経済学の一部門として、国民経済学との連関を有するものとして確立したことから、経営経済学 (Betriebswirtschaftslehre) と呼ばれる。 それに対し、アメリカ経営学は、テイラーが工場における効率的な管理手法である科学的管理法を提示したとおり、経営管理に関する現場の問題解決を図り、経営者に対し指針を示すための実践的な経営管理論 (Business Administration/Management) として誕生している。その後、社会学や心理学など様々なアプローチを取り入れながら、学際的な学問として発展してきた。 この授業では、ドイツ経営学とアメリカ経営学の流れを追うことから経営学の歴史を学ぶ。前半でドイツ経営学の学説史を、後半でアメリカ経営学の学説史を学び、最後にドイツとアメリカの経営学が日本の経営学にどのように影響しているか、また日本独自の経営理論 (日本的経営論) がいかなるものかを学ぶ。			
授業の目的 この授業では、ドイツ経営学とアメリカ経営学の流れを追うことから経営学の歴史を学ぶ。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ経営学とアメリカ経営学の特徴をそれぞれ理解すること。 ・それぞれの学説について、その背後にある問題意識まで深く理解すること。(いかなる課題を解決するために登場した学説であるのか。いかなる時代の、いかなる政治・経済・社会的状況を受けて展開されてきた学説であるのか。) ・それぞれの経営理論について、技術的に身につけるだけではなく、方法論的基礎まで、深く理解すること。 ・日本の経営学の特徴を理解すること。 			
成績評価の方法と基準 学期末試験70%、授業内で提示する課題30%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 (1) ガイダンス：この授業で何を学ぶのか (2) ドイツ経営学の誕生：商科大学の設立と私経済学論争の展開 (3) 経営経済学の発展：ニックリッシュとシュマーレンバッハ (4) 第二次世界大戦後の経営経済学の展開：グーテンベルク・パラダイム (5) 社会的市場経済の政策と企業体制論の展開 (6) 経営経済学における規範主義の方向：価値自由と科学的基礎づけの課題 (7) アメリカ経営学の誕生：テイラーの科学的管理法とフォード・システム (8) メイヨーらのホーソン実験と人間関係論 (9) ウェーバーの官僚制論 (10) バーナードの組織論 (11) サイモンの意思決定論 (12) 企業戦略論の展開 (13) 新制度経済学の潮流 (14) ドイツ経営学・アメリカ経営学の日本経営学への影響と日本的経営論 (15) 総復習とまとめ 【自学自習の方法】 ・テキストの指定した箇所や配布したプリントを、事前にしっかり読み込んでくること。			
教科書・参考書等 【教科書】 井原久光 (2008) 『テキスト経営学：第3版』 ミネルヴァ書房。			

【プリント配布予定】

岡田昌也・永田誠・吉田修（1980）『ドイツ経営学入門』有斐閣。

【参考書】

ジェイムス・アベグレン著，山岡洋一訳（2004）『日本の経営』日本経済新聞社。

オフィスアワー 金曜日14:30～15:30（7号館2階・山口研究室）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

大人として当たり前のマナーをもって授業にのぞみましょう。

質問は授業終了後、教室でも受け付けます。

ナンバリングコード B3BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 320104) 経営史 Business History	科目区分	時間割 前期月2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 張 暁紅	関連授業科目	経済史入門、現代企業論	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 経営史では企業の歴史、とりわけ大規模企業の生成と発展の歴史を学ぶ。 本講義では、前半は近代におけるイギリスとアメリカの経営史を講義し、後半は日本経営の歴史を中心に学ぶ。講義内容は以下の4点が主要な柱となる。 ①英に対し、米・日などを含めた後進国の企業経営の歴史はそれを取り巻く経済環境とどのように関係しているのか？ ②企業は直面した経営上の課題にどのように対応してきたのか？ ③現代の大企業はどのような歴史背景のもとで形成・成長してきたのか？ ④近現代日本企業の経営的な特徴と近年におけるその変容をどう理解すべきか？			
授業の目的 企業経営およびそれを取り巻く経済環境の歴史を理解し、現在の経営現象を歴史的な視点を用いて説明できるようになること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
企業はそれを取り巻く経済環境の中で形成・成長されてきたことを、歴史事例を持って説明できる。 現在の経営現象を歴史的な視点を用いて説明できる。			
成績評価の方法と基準 期末試験70%、レポート30%で評価を行う。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 (1) ガイダンス：経営史はどういう学問か？ (2) 産業革命と近代企業の成立①経営者の課題と対応 (3) 産業革命と近代企業の成立②経営管理を中心に (4) アメリカ的巨大大企業①大量生産体制および資本・管理の大規模化 (5) アメリカ的巨大大企業②アメリカ的大企業の発生 (6) 独占的企業の展開と限界 (7) ビッグ・ビジネスと現代管理組織の成立①管理組織の変化 (8) ビッグ・ビジネスと現代管理組織の成立②工場管理の変化 (9) 発展途上国の工業化と企業経営 (10) 日本における近代企業の成立 (11) 日本企業の大規模化 (12) 戦後の企業経営一財閥解体から企業集団の形成まで一 (13) 日本型企業システムの光と影①講義 (14) 日本型企業システムの光と影②ドキュメンタリー鑑賞 (15) まとめ 定期試験			
教科書・参考書等 教科書は使用しない。 参考書：大河内暁男『経営史講義（第2版）』東京大学出版会、2001年。宮本又郎等『日本経営史』有斐閣、2007年。			
オフィスアワー 火曜日の三時限目。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 私語などほかの受講生の迷惑をかける行為はしないこと。			

ナンバリングコード B3BSN-bdcE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 320124) 環境システム論 Introduction to Environmental Problem	科目区分	時間割 後期木3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bdcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 古川 尚幸	関連授業科目	商品システム論、商品実験	
	履修推奨科目	資源エネルギー論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 現代社会の大きな流れのひとつとして、地球環境に負荷を与えない、循環型社会システムの構築が模索されています。産業構造に目を転じてみても、このような環境への関心の高まりや、それに伴う社会的ニーズを背景として、環境ビジネスという産業が生まれ、その市場は大きく成長しようとしています。この授業では、これからの循環型社会システムを理解するために必要な基礎知識の修得を目的とし、様々な地球環境問題、廃棄物問題、リサイクル問題について、その基礎から最新のトピックスまでを解説する予定です。			
授業の目的 企業経営や市民生活と環境問題の関わりについて、基礎的な知識を習得することを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①企業経営と環境問題の関わりについて説明できる。 ②市民生活と環境問題の関わりについて説明できる。 ③習得した基礎知識をもとに、刻々と変化する環境問題について、内容を判断し、自分の意見を構築できる。 1つの目安として、資源エネルギー論とあわせて履修することで、環境社会検定試験（東京商工会議所主催）に合格する程度の基礎知識の修得を目標とします。			
成績評価の方法と基準 以下の2つのうち、いずれか各受講生の希望により、成績評価の方法を選択できます。 (1) 期末テスト（100点）により認定します。 (2) 期末テスト（50点）および環境社会検定試験（50点）により認定します。 すでに環境社会検定試験に合格している者、または2019年度後期までに合格した者に50点を与えます。 なお、確認テストは出席状況の把握や授業内容の理解度を確認するために行うので、その結果は単位認定に影響しません。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 (1) イントロダクション (2) 地球温暖化の現状 (3) 地球温暖化に対する取り組み 1 (4) 地球温暖化に対する取り組み 2 (5) オゾン層破壊 (6) その他の環境問題 1 (7) その他の環境問題 2 (8) 廃棄物問題の現状 (9) リサイクルの現状 (10) リサイクル法 1 (11) リサイクル法 2 (12) 環境問題に対する消費者の取り組み (13) 環境問題に対する企業の取り組み (14) ゲストスピーカーによる講演 (15) まとめ (16) 期末試験 【授業方法】 プリントを配付し、それらを中心に授業を行います。授業ごとに穴埋め形式の確認テストを行います。この確認テストは前回の授業内容から重要なキーワードについて出題します。 新聞やテレビ等を積極的に利用し、普段から環境問題やエネルギー問題に興味を持つよう心掛けてください。			

教科書・参考書等

教科書：
使用しません

参考書：

三橋規宏『環境経済入門』（日本経済新聞出版社、2013年、1000円＋税）
足達英一郎『環境経営入門』（日本経済新聞出版社、2009年、860円＋税）

オフィスアワー 金曜日4時限目
経済学部2号館2F古川研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

特にありません。環境社会検定試験の詳細については、東京商工会議所HPを参照してください。

ナンバリングコード B3BSN-bdcE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 323431) 資源エネルギー論 Analysis of Energy Resources	科目区分	時間割 前期木2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bdcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 古川 尚幸	関連授業科目	商品システム論、商品実験	
	履修推奨科目	環境システム論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 現代社会において、われわれはエネルギーを大量に消費することで、物質的に豊かな生活を享受することが可能となりました。今後、この豊かな生活を維持し、産業の持続可能な発展を遂げるには、エネルギー問題の現状を正しく認識し、それに基づいた新たなエネルギー需給システムを構築する必要があります。本講義では、これからのエネルギー需給システムを理解するために必要な基礎知識の修得を目的とし、エネルギーを取り巻く諸問題について、その基礎から最新のトピックスまでを解説する予定です。			
授業の目的 企業経営や市民生活とエネルギー問題の関わりについて、基礎的な知識を習得することを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①企業経営とエネルギー問題の関わりについて説明できる。 ②市民生活とエネルギー問題の関わりについて説明できる。 ③習得した基礎知識をもとに、刻々と変化するエネルギー問題について、内容を判断し、自分の意見を構築できる。 1つの目安として、環境システム論とあわせて履修することで、環境社会検定試験（東京商工会議所主催）に合格する程度の基礎知識の修得を目標とします。			
成績評価の方法と基準 以下の2つのうち、いずれか各受講生の希望により、成績評価の方法を選択できます。 (1) 期末テスト (100点) により認定します。 (2) 期末テスト (50点) および環境社会検定試験 (50点) により認定します。 すでに環境社会検定試験に合格している者、または2019年度前期までに合格した者に50点を与えます。 なお、確認テストは出席状況の把握や講義内容の理解度を確認するために行うので、その結果は単位認定に影響しません。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 (1) イントロダクション (2) エネルギーの基礎知識 (3) 枯渇性エネルギー ～石油 1 (4) 枯渇性エネルギー ～石油 2 (5) 枯渇性エネルギー ～石炭 (6) 枯渇性エネルギー ～天然ガス (7) 枯渇性エネルギー ～原子力 1 (8) 枯渇性エネルギー ～原子力 2 (9) 再生可能エネルギー ～水力・地熱 (10) 新エネルギー ～風力・太陽光 (11) 新エネルギー ～コジェネレーション・燃料電池 (12) 新エネルギー ～廃棄物発電・バイオマス (13) 電力・省エネルギー (14) ゲストスピーカーによる講演 (15) 予備日 (16) 期末試験 【授業方法】 プリントを配付し、それらを中心に授業を行います。授業ごとに穴埋め形式の確認テストを行います。この小テストは前回の授業内容から重要なキーワードについて出題します。 新聞やテレビ等を積極的に利用し、普段から環境問題やエネルギー問題に興味を持つよう心掛けてください。			

教科書・参考書等

教科書：

使用しません

参考書：

芥田知至『エネルギーを読む』（日本経済新聞出版社、2009年、860円＋税）

柴田明夫・丸紅経済研究所『資源を読む』（日本経済新聞出版社、2011年、860円＋税）

オフィスアワー 金曜日4時限目

経済学部2号館2F古川研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

特にありません。環境社会検定試験の詳細については、東京商工会議所HPを参照してください。

ナンバリングコード B3BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード:322142) 企業倫理 Business Ethics 企業統治と企業倫理	科目区分	時間割 前期金2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 山口 尚美	関連授業科目	現代企業論、経営学史	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回＋自学自習			
授業の概要 相次ぐ企業不祥事を契機として、「企業の社会的責任」に関する研究ならびに企業実践上の取り組みが関心を集めている。企業が自身を取り巻くステークホルダーに対して責任ある事業活動を行っていくためには、2つの重要な観点がある。1つめは、企業戦略のうちにステークホルダーへの責任を組み込むべく、経営者を規律づけること、すなわち企業統治である。2つめは、企業行動の倫理性を確保すべく、企業組織のあらゆる意思決定過程に倫理的判断を組み込むこと、すなわち企業倫理の確立である。 この授業では、企業統治と企業倫理の基本的な概念、学問的性格、実践上の課題に関する理解を深め、社会に対して責任ある企業行動を確保するために必要な考えを学ぶ。			
授業の目的 この授業を通じて、企業統治と企業倫理の基本的な概念、学問的性格、実践上の課題に関する理解を深め、社会に対して責任ある企業行動を確保するために必要な考えを学ぶ。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・企業倫理の概念を、他の類似概念（コンプライアンス、ステークホルダー戦略、リスク・マネジメント、企業統治など）と混同せず、しっかりと理解すること。 ・企業統治と企業倫理の補完関係がなぜ重要かを理解すること。 ・アメリカ、ドイツ、日本の企業統治と企業倫理の特徴を理解すること。 ・日本企業の問題行為を防止するためには何が必要か、自分なりの意見を持つこと。 ・現実の企業行動を、経済合理性のみならず、倫理性の観点からも、批判的に考察・評価できるようにすること。 			
成績評価の方法と基準 学期末試験70%、授業内で提示する課題30%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 (1) ガイダンス：この授業で何を学ぶのか (2) 日本企業による問題行為の推移と「企業の社会的責任」 (3) 現代の大企業の性格：企業形態から見る株式会社 (4) 企業統治の論点：経営者の規律づけを考える (5) 企業統治の国際比較：制度と実態 (6) アメリカ型企業統治の問題：エンロン事件を考える (7) なぜ倫理が必要か：啓発的自己利益と決疑論の問題 (8) 文化相対主義の問題と倫理的客観主義 (9) 功利主義の視点 (10) 義務論の視点 (11) 徳理論の視点 (12) 企業倫理の国際比較1：利益と倫理の関係について (13) 企業倫理の国際比較2：倫理規範の設定について (14) 企業統治と企業倫理の統合の視点 (15) 総復習とまとめ 【自学自習の方法】 ・テキストの指定した箇所や配布したプリントを、事前にしっかり読み込んでくること。 ・企業不祥事に関するニュースを気に掛け、なるべく多くの事例を知っておくこと。 ・普段の生活の中で、自分自身の行為についても、倫理的衝突が生じていないかどうかを常に意識し、倫理的内省を心掛けるようにすること。			
教科書・参考書等 【教科書】 ・風間信隆編著 (2019)『よくわかるコーポレート・ガバナンス』ミネルヴァ書房。			

【参考書】

- ・佐久間信夫編著（2017）『コーポレート・ガバナンス改革の国際比較：多様化するステークホルダーへの対応』ミネルヴァ書房。
- ・D・スチュアート著，企業倫理研究グループ訳（2001）『企業倫理』白桃書房。
- ・風間信隆・松田健編著（2018）『実践に学ぶ経営学』文真堂。

【より深く学ぶために】

<アメリカの企業倫理>

- ・リン・シャープ・ペイン著，鈴木主税・塩原通緒訳（2004）『バリュー・シフト：企業倫理の新時代』毎日新聞社。
- ・ノーマン・E・ボウイ著，中谷常次・勝西良典監訳（2009）『利益につながるビジネス倫理：カントと経営学の架け橋』晃洋書房。

<ドイツの企業倫理>

- ・万仲脩一（2004）『企業倫理学：シュタインマン学派の学説』ふくろう出版。

<日本の企業倫理>

- ・渋沢栄一著，守屋淳訳（2010）『現代語訳 論語と算盤』筑摩書房。

オフィスアワー 金曜日14:30～15:30（7号館2階・山口研究室）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

大人として当たり前のマナーをもって授業にのぞみましょう。

質問はオフィスアワーの他、授業終了後に教室でも受け付けます。

ナンバリングコード B3BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322160) 経営組織論B Organization Theory B	科目区分	時間割 前期月3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 松岡 久美	関連授業科目	経営学入門, 経営組織論A	
	履修推奨科目	経営戦略論A・B, 人的資源管理論A・B	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 組織のマネジメントの諸側面の中でも、特に、リーダーシップと変革をテーマとして取り上げ、映像教材や事例教材を用いたディスカッション形式により授業を進める。グループワークやディスカッションを通じて、組織現象の機微を体験的に学習してもらうことにより、実践的な課題解決能力の育成につなげる。			
授業の目的 組織のマネジメントにかかわる基本理論を用いて事例の分析を行うとともに、問題解決に向けた具体的な提案を行えるようになることを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・組織のマネジメントに関する理論を踏まえた上で事例の分析・考察ができる。 ・上記を踏まえた上で、問題解決のための提案ができる。 			
成績評価の方法と基準 課題レポート (30%), 討議への貢献度 (20%) と期末試験 (50%) により評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業の方法】 毎回の講義は、テーマの解説、グループディスカッション、クラスディスカッション、まとめの講義の順に進める(扱う題材により多少変化する場合がある)。ディスカッション用の教材として、事例教材や映像教材を用いる(映像教材については講義中に視聴を行う)。現実的なマネジメント課題に触れてもらうため、ゲストスピーカーセッションを実施する場合がある。			
【授業計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 集団のマネジメントとリーダーシップ①事例分析・その1 3. 集団のマネジメントとリーダーシップ②事例分析・その2 4. 集団のマネジメントとリーダーシップ③事例分析・その3 5. 集団のマネジメントとリーダーシップ④まとめ 6. 組織のマネジメントとリーダーシップ①事例分析・その1 7. 組織のマネジメントとリーダーシップ②事例分析・その2 8. 組織のマネジメントとリーダーシップ③事例分析・その3 9. 組織のマネジメントとリーダーシップ④まとめ 10. 変革のリーダーシップ①事例分析・その1 11. 変革のリーダーシップ②事例分析・その2 12. 変革のリーダーシップ③事例分析・その3 13. 変革のリーダーシップ④事例分析・その4 14. 変革のリーダーシップ⑤まとめ 15. まとめ 			
なお、授業計画に関しては、進捗状況との関係で変更が生じる場合がある。			
【学習の方法】 事例教材を使用する場合には、予習として事前の熟読と設問に対する検討が不可欠となる。また、それらを課題レポートの一部として、提出してもらう。			
教科書・参考書等 ケースディスカッション用の教材として、オンデマンド形式のビジネスケースを受講者確定後に生協にて販売する予定(価格は2500円程度)。			

参考書として、以下のものをあげておく.

- ・金井壽宏『リーダーシップ入門』日経文庫
- ・金井壽宏『組織変革のビジョン』光文社新書
- ・沼上幹『組織デザイン』日経文庫
- ・沼上幹『組織戦略の考え方』ちくま書房

オフィスアワー 開講時にアナウンスする.

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業を進める上で事前予習がかなり重要となるので必ず予習をしてから参加すること.

討議においては積極的に自分の意見を述べるとともに、他者の意見にもしっかり耳を傾けること.

遅刻厳禁.

*本講義は、17E以前の学生を対象とします。18Eの学生は受講できませんので気を付けてください.

ナンバリングコード B3BSN-bcdE-30-Lb2 授業科目名 (時間割コード: 322200) マーケティング論B Marketing B	科目区分	時間割 後期月3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lb	単位数 2	
担当教員名 藤村 和宏	関連授業科目	経営関連科目	
	履修推奨科目	マーケティング論A	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 マーケティングとは、同一の消費者ニーズをターゲットとする競争企業に対抗しながら、企業が消費者との間で両者（企業及び消費者）が満足できるような長期的な交換（取引）関係を形成・維持するための市場活動である。このことから、マーケティングの展開においては、消費者（顧客）満足の向上を図りながら、競争優位を形成・維持することが求められる。したがって本講義では、このことを達成する手段としての4P s（Product, Price, Promotion, Place）について、学生が主体的に行うケース発表および討議を中心として考察を行なう。 また、従来のマーケティングの対象は有形財（モノ）であったが、経済のサービス化とともに、営利および非営利サービスが経済において重要な役割を経たすようになっており、且つ競争も激化していることから、サービスもマーケティングの重要な対象となっている。そこで本講義では、有形財（モノ）との比較で、サービス・マーケティングの特質についても考察を行なう予定である。			
授業の目的 マーケティングの具体的戦略（マーケティング・ミックス）に関する専門的知識を習得するとともに、マーケティング戦略に関する問題を自ら発見し解決できる能力を身につけるための基礎を養う。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 新聞や専門誌のマーケティング戦略に関する記事を理解できる。 2. 市場で展開されているマーケティングに関心を持ち、具体的な活動から企業の意図や目標を解釈・説明できる。			
成績評価の方法と基準 期末試験、e-ラーニング、および講義への参加度により評価し（100点+ α ）、60点以上を合格とする。 期末試験にはAタイプとBタイプがあり、どちらかを選択する。Aタイプはケース発表(20点)を行い、それをケース・レポート(50点)として提出したものが選択できる（試験なし）。Bタイプは期末試験のみで、配点は70点である。 e-ラーニングについては、10点満点のものを3回課する（10点×3回）。 講義への参加度とは、学生が行うケース発表に対する質問での参加度であり、1回の質問に対して1点を与える（1点×質問数）。また、ケース発表に対する評価への参加度であり、評価に参加するごとに1点を与える（1点×参加回数）			
授業計画並びに授業及び学習の方法 学生によるケース発表と質疑応答を中心に、パワーポイント、ビデオ、プリントを使用しながら口述筆記で行なう。講義資料については、必要に応じて各自で藤村研究室のホームページからダウンロードして下さい。なお、ダウンロードに必要なパスワード等は第1回目の講義で提示します。 第1回 マーケティングの基礎概念 第2回～5回 製品戦略 第6回～9回 価格戦略 + ケース発表と討議 第10回～13回 プロモーション戦略 + ケース発表と討議 第14回～15回 流通戦略 + ケース発表と討議 【自学自習についてのアドバイス】 第2回～5回 4つの戦略に関する配布資料を読む。 第6回～15回 発表ケースに関する資料を収集し、討議内容を考える。			
教科書・参考書等 4つの戦略に関する資料を配布する。なお、資料は藤村研究室のHPから各自でダウンロードして下さい。 【参考】 青木幸弘編、『ケースで学ぶマーケティング』、有斐閣、2015年。 青木幸弘・恩蔵直人編、『製品・ブランド戦略』、有斐閣、2004年。 藤村和宏著、『医療サービスと顧客満足』、医療文化社、2009年。			
オフィスアワー 月曜日の10時～12時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義中および講義後の質問を歓迎します。もし対面での質問が嫌な場合は、用紙に記入し、講義後に提出して下さい。口頭あるいは用紙で出された重要な質問については、次の講義時間の最初に回答します。 10分以上遅れた場合、講義の妨げになるので、入室を禁止します。 また、講義中の会話や携帯電話は禁止します。注意を3度受けた学生は成績評価の対象から除外します。			

ナンバリングコード B3BSN-bxxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322222) 消費者行動 Consumer Behavior	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bxxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 高橋 広行	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 本講義では、消費者行動の基本的な考え方を学びつつ、実際の購買行動の場であるお店（小売業）との関係性や、それをふまえた小売のイノベーションについて検討を深めていく。消費とは何か。消費者は世の中の数多くのブランドをどのように理解しているのだろうか。こういった基礎的な内容を最初にレクチャーした上で、応用編として、実際の小売（主に食品スーパー）を対象とした店舗利用や購買行動との関連がどうなっているのか、その購買行動をふまえた新しい小売のあり方はどうすればいいのか。インターネットやオンラインの機能、モバイルアプリとどうつきあっていくべきなのか、こういった点を科学的な枠組みやモデルを使いながら明らかにしていく。『消費者視点の小売イノベーション—オムニ・チャンネル時代の食品スーパー』（2018年、有斐閣）の研究成果を活用しながら、「消費者行動論を企業のマーケティング戦略にどのように活用することが出来るのか」という点をこの講義で学ぶものである。 講義の前半4回までは、消費者行動論の基本的な内容をレクチャーする。その後、GW後からは、応用編として『消費者視点の小売イノベーション』をテキストとして用い、消費者行動と小売（購買行動）について、深く掘り下げて学んでいくスタイルを取る。消費者行動を理解し、将来のビジネスに役立てたいという意欲のある学生に来て欲しい。できる限り、具体的な事例や最先端の内容を盛り込みながら講義をする。			
授業の目的 この講義を通じて、学生が次の3点を理解できるようになることを目指す。 (1) 基本的な消費者行動論の考え方やモデルを理解できる。 (2) 学生も一人の消費者であり、自分自身の行動を客観的に分析して、理解できるようになる。 (3) 理論や事例を通じて、企業のブランド戦略やマーケティング戦略の意図が理解できる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
この講義を通じて、学生が次の3点を理解できるようになる。 (1) 基本的な消費者行動論の考え方やモデルを客観的に観察可能な行動ができる。 (2) 学生も一人の消費者であり、自分自身の行動を客観的に分析できる。 (3) 理論や事例を通じて、企業のブランド戦略やマーケティング戦略の意図がわかるようになる。			
成績評価の方法と基準 小テスト 30% 講義内容にもとづく小テスト 試験 70% 講義全体に関する内容にもとづく試験 小テストは講義内容の理解度を深めるための小テストを行う。 試験は第1回から第14回までの講義全体の理解度に関する試験を行う。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 消費者行動とは何か？ - 消費者行動とマーケティング - 第2回 消費者は何の影響を受けて消費するのか？ - 消費者行動をとりまく要因（マクロ的な要因） - 第3回 ブランドとは何か？ - ブランドの系譜と消費者行動 - 第4回 【テキスト序章・1章】応用編 - 食品スーパー現状と「ブランド力」 - 第5回 【テキスト2章・3章】応用編：購買行動とスクリプト - 消費者は業態をどのように認識しているのか？ -			

第6回 【テキスト4章・5章】応用編：イノベーションの方向性

－買い物行動の革新：まいばすけっと－

第7回 前半のまとめと小テスト

第8回 【テキスト6章】応用編：ブランド体験価値

－店舗内行動の革新：サンシャインの事例－

第9回 【テキスト7章】応用編：店舗内行動の革新

－阪急オアシス、ビジュアル・マーチャンダイジングの例－

第10回【テキスト8章】応用編：売り場行動の革新

－北野エース、パッケージとPOPのデザイン－

第11回【テキスト9章】応用編

－消費者行動の変化とオムニチャンネル1－

第12回【テキスト9章】応用編

－消費者行動の変化とオムニチャンネル2－

第13回【テキスト10章】応用編

－消費者行動とモバイルアプリ、スマートショッピング－

第14回 新業態「Kitchen Market」の事例

第15回 講義全体のまとめ

+ テスト

教科書・参考書等

高橋広行 『消費者視点の小売イノベーションーオムニ・チャンネル時代の食品スーパー』1版（有斐閣、2018）生協，Amazon 248ページ ISBN:978-4641165304

2018年11月に刊行した「消費者視点の小売イノベーション」（有斐閣）に沿って、消費者行動を理解する。わかりやすく書いた本なので理解を深めてほしい。

オフィスアワー 夏期集中講義期間中の昼休み

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義だけでなく、試験にもテキスト「消費者視点の小売イノベーション」（有斐閣）を使うので、生協などを通じて、早めに入手しておくことが望ましい。

ナンバリングコード B3BSN-bacE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 320126) 調査データ分析 I Analysis of Survey Data I	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bacE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 松下 将章	関連授業科目	統計学入門、経営統計学	
	履修推奨科目	統計学入門、経営統計学	
学習時間 (講義90分 × 4回 + 自学自習) × 4日			
授業の概要 本講義では、量的研究における研究の設計、および量的データの処理・分析について学ぶ。統計分析の技法を習得するとともに、量的データにもとづく研究課題の設定の方法についても学ぶ。これらの取り組みを通じて、量的データを用いて卒業論文を書くための方法を理解することが、最終的な目標である。			
授業の目的 得られた量的データにもとづいて、研究課題を設定する方法や、量的データに対して統計分析を行なうための知識・技能を習得する。 (DPの知識・理解、および問題解決・課題探求能力に相当)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・統計分析に関する基礎的な知識を獲得することができる。 ・量的データを、統計的手法を用いて分析することができる。 			
成績評価の方法と基準 講義中に指示する演習問題 (50%)、および最終レポート (50%) の成績で評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第 1回：研究の方法とリサーチ・デザイン① 第 2回：研究の方法とリサーチ・デザイン② 第 3回：データ解析の準備① 第 4回：データ解析の準備② 第 5回：平均の差の検定① 第 6回：平均の差の検定② 第 7回：分散分析① 第 8回：分散分析② 第 9回：因子分析 第10回：変数の作成 (合成変数、ダミー変数、天井効果、床効果、信頼性分析) 第11回：相関分析、偏相関分析 (相関と因果) 第12回：回帰分析① 第13回：回帰分析② 第14回：演習① 第15回：演習② 【授業および学習の方法】 講義においては、講義資料とともに、演習用のデータを用いる。講義では、演習用のデータをもとに統計ソフトで分析し、分析の仕方や結果の見方について学んでいく。			
教科書・参考書等 講義資料をもとに講義する。講義資料の作成にあたって参考にした文献を下記する。 向後千春・富永敦子 (2007) 『統計学がわかる ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』技術評論社。 向後千春・富永敦子 (2008) 『統計学がわかる 【回帰分析・因子分析編】 アイスクリームで味わう、“関係”の統計学』技術評論社。			
オフィスアワー 初回授業時に指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義中に取り組む演習問題が成績評価に含まれるため、欠席をしないこと。			

ナンバリングコード B3BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 320504) 保険システム論 Introduction to Insurance System	科目区分	時間割 前期火3	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 安井 敏晃	関連授業科目	リスクと保険	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 リスクと保険において保険制度のごく入門的な知識を習得した学生を対象に、保険制度の基礎を解説する。代表的な損害保険種目および生命保険種目の特徴についても説明する。			
授業の目的 保険を理解し、基礎的な知識を身につけることを目的としている。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 保険制度に強い関心をもつことができる。 2. 主要な保険種目について理解することができる。 3. 保険の歴史について理解することができる。			
成績評価の方法と基準 期末試験により評価する (100%)。 詳しくは初回の講義において説明するので、納得した上で受講すること。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 口述筆記、板書等 (1) 保険の役割 (2) 保険の仕組み (3)～(4) 保険の類似制度 (5) 保険の便宜的分類 (6) 保険の理論的分類 (7) 保険契約の当事者と関係者 (8) 損害保険契約 (9) 保険の歴史 (10) 損害保険各論 (海上保険) (12) 損害保険各論 (火災保険) (13) 損害保険各論 (自動車保険) (14) 生命保険論 (15) まとめ *自学自習について 授業中の指示に従い、提示された書籍、新聞記事などを確認すること。 予習・復習を欠かさないこと。 *授業の効果を高めるために授業計画を変更することがあるので注意されたい。			
教科書・参考書等 教科書 大谷孝一編『保険論 (第三版)』成文堂			
オフィスアワー 火曜日の4時限目。変更する場合には講義中に指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ リスクと保険を受講した者を対象としているので、保険制度の入門的な内容についてはほとんど触れないので、注意されたい。なお、シラバスで授業計画を示しているが、教育効果を高めるために、実際の進捗状況をみながら授業計画を変更することがある。 講義中には、私語ならびに本講義と関係のない作業をしてはならない。度重なる場合には単位を認定しない。 講義中には写真撮影・録音を禁じる。携帯・スマートホンの電源を切っておくこと。			

ナンバリングコード B3BSN-bdcE-30-Pg2 授業科目名 (時間割コード:320507) 商品実験 Experiments of Commodities	科目区分	時間割 後期火2~3	対象年次及び学科 3~経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bdcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Pg	単位数 2	
担当教員名 古川 尚幸	関連授業科目	環境システム論、資源エネルギー論	
	履修推奨科目	商品システム論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 商品が持つ基本的品質について理解を深めるために、実際に様々な商品を用いて実験を行います。			
授業の目的 実験を通じて、身の回りの商品に興味・関心をもつことを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①商品に興味・関心を持つことができる。 ②商品が持つ基本的品質について理解できる。 ③商品について、内容を判断し、自分の意見を構築できる。			
成績評価の方法と基準 出席状況とレポートの内容で評価します。期末試験は行いません。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 (1) イントロダクション (2) 食料品の商品実験 1 (3) 食料品の商品実験 2 (4) 食料品の商品実験 3 (5) 食料品の商品実験 4 (6) 食料品の商品実験 5 (7) 食料品の商品実験 6 (8) 商品の原理を考える商品実験 1 (9) 商品の原理を考える商品実験 2 (10) 商品の原理を考える商品実験 3 (11) 商品の原理を考える商品実験 4 (12) 環境を考える商品実験 1 (13) 環境を考える商品実験 2 (14) 環境を考える商品実験 3 (15) まとめ なお、実験内容はサンプルや薬品の入手事情により変更することがあります。 【授業方法】 実験を行います。普段から身の回りの商品に興味を持つよう心掛けてください。			
教科書・参考書等 教科書は使用しません。 参考書は随時指定します。			
オフィスアワー 金曜日4時限目 経済学部2号館2F古川研究室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 設備等の都合で受講者数を制限します。詳細については、掲示をご覧ください。			

ナンバリングコード B3BSN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 323530) 経営財務論 Corporate Finance	科目区分	時間割 前期木1	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 嘉本 慎介	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 企業は、生産活動の継続・成長を通じて企業価値を高めることを目的として、既存事業の拡大や新規事業の開拓などの事業投資を行う。また、事業投資を実施するために、株式や社債などの証券を発行して市場の投資家から資金を調達する。そして、投資によって創出される価値を、配当・利子といったかたちで資金の出資した投資家に分配する。これらの企業の経営財務に関する活動は企業価値の向上と企業の持続的な成長に不可欠である。 経営財務論では、これらの経営財務活動の中でも、投資の意思決定に関する理論・株式や負債による資金調達や資本構成に関する理論・企業の買収と合併の問題について講義を行う。			
授業の目的 現代企業の財務活動において重要な役割を担う投資・資本構成・配当の意思決定について、理論的な考え方への理解を養成する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
経営財務論における企業の財務活動に関する考え方を理解できる。 経営財務論における企業の財務活動に関する考え方を応用し、企業の財務活動に関する諸問題について課題を探索することができる。			
成績評価の方法と基準 期末試験によって評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 パワーポイントを使用して、その内容を板書してもらう形式で講義をする。講義中に演習問題を解いてもらうことがある。 第1-2回目 企業の財務活動 第3-6回目 投資プロジェクトの価値評価と投資の意思決定 第7-8回目 資金調達の方法と金融市場との関係 第9-10回目 資金調達と企業の価値 第11-12回目 資本構成の基礎理論 第13-14回目 株式と負債のエージェンシー・コスト 第14-15回目 企業の買収と合併 注) 授業計画は、進捗状況および受講者の理解度に応じて変更される可能性がある。 自主学習のアドバイス 自主学習の一例として『コーポレートファイナンスの原理第9版』 2012年 大野薫 (訳) の以下の章を読むことと練習問題に取り組むことを勧める。 第2回目 第1章 第3-6回目 第4章 第7-8回目 第15・20章 第9-10回目 第14・15章 第11-12回目 第16章 第13-14回目 第17章 第14-15回目 第29章			
教科書・参考書等 参考書 『コーポレートファイナンスの原理第9版』 大野薫 (訳) 『コーポレートファイナンス入門編第2版』 久保田敬一他 (訳) 『コーポレートファイナンス第10版 (上)・(下)』 藤井真理子・国枝繁樹 (訳)			
オフィスアワー 木曜日 18:00~19:30			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義中に電卓を使用するので用意しておくこと。 授業中の私語等の迷惑行為には厳しく対処する。			

ナンバリングコード B3BSN-bcaE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 320125) 調査データ分析 Analysis of Survey Data	科目区分	時間割 後期金1~2	対象年次及び学科 3~経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 細見 正樹	関連授業科目	統計学入門、経営統計学	
	履修推奨科目	統計学入門、経営統計学	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 グループワークのため、時間外の学習時間を確保する必要がある。			
授業の概要 本講義では、調査の設計およびデータ処理の技法について学ぶ。統計分析の技法を習得して、量的データを用いた卒業論文を書くための方法を理解することを最終的な目標とする。 論文が完成するまでのプロセス、データ収集およびアンケート設計の方法について学ぶ。人数にもよるが、グループワークで、実際にデータを収集して、統計ソフトを用いて分析することを予定している。			
授業の目的 ・データを収集して統計分析を行うための知識・技能を習得する。 (DPの問題解決・課題探求能力、問題解決・課題探求能力に相当)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・統計に関する知識を簡単に説明することができる。 ・収集したデータを統計的手法を用いて分析することができる。			
成績評価の方法と基準 平常点、講義中に指示する課題および最終レポートで評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 第1回~第2回 量的調査と質問項目 第3回~第6回 統計解析の準備 第7回~第8回 クロス集計、相関 第9回~第10回 因子分析 第11回~第12回 t検定、分散分析 第13回~第14回 回帰分析 第15回 まとめ (学習効果を高めるために、順番や内容は変更することがある。)			
【授業及び学習の方法】 補助プリントを中心に講義を行うので、事前に印刷すること グループワークによる講義を予定しており、実際にデータを収集してもらい統計分析をしてもらう予定である。(人数によっては公開調査データを用いる。)			
教科書・参考書等 講義時に指定する。			
オフィスアワー 講義終了後に対応する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ・詳しい日程は、夏休み前に掲示する。(隔週の金曜1・2限を予定している) ・グループワークなので、欠席をしないこと。出席状況次第では単位を与えない。 ・受講希望者は事前にレポートを提出してもらい受講者を選考する予定である(詳細は夏頃に掲示)			

ナンバリングコード B3BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 323100) グローバル経営論 Global Management	科目区分	時間割 後期金4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 向 滄	関連授業科目	経営戦略論、経営組織論	
	履修推奨科目	経営戦略論、経営組織論	
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習			
授業の概要 国籍や業種を問わず、企業が国境を越えてまたは国境を跨いで生産・販売などの活動を行うのはもはや一般的である。このような国際化している企業(多国籍企業)の諸活動を研究対象とした学問は国際経営論である。本講義では、多国籍企業の諸活動について、理論と実態の両方から体系的に説明し、国際経営論の基礎を学ぶ。			
授業の目的 本講義の目的は、経営戦略論と経営組織論をベースとして、グローバル化する経営の諸問題を理解するための考え方を学ぶことである。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①国際経営とは何かを理解すること ②国際経営に関する理論体系を理解すること ③ベーシックな戦略論や組織論の理論を用いて、国際経営に関する諸問題を分析し、その分析結果をアウトプットとして発表できること。 ④将来、国際ビジネスで活躍する時に必要な基礎知識と発想力を身に付けること。			
成績評価の方法と基準 期末試験(100%)により評価する。なお、記述の内容はもちろんのこと、誤字・脱字がなく、読みやすい文章を高く評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 授業は基本的にパワーポイントを使った講義形式で進める。また、ビデオなどの視聴覚教材も適宜使用する。受講生は日頃から日本経済新聞や『日経ビジネス』『週刊ダイヤモンド』などのビジネス誌に目を通し、企業の経営動向について観察する習慣を付けてください。			
第1回: イントロダクションー国際経営の基礎知識 第2回: 多国籍企業の歴史 第3回: 海外直接投資論 第4回: プロダクト・サイクル仮説と優位性の移転 第5回: 多国籍企業の組織デザイン 第6回: トランスナショナル型組織 第7回: 国際的な活動の配置と調整 第8回: 海外子会社論 第9回: グローバル・イノベーション論 第10回: 国際パートナーシップ 第11回: 国際マーケティング 第12回: 国際生産 第13回: 国際研究開発 第14回: 国際的なサプライチェーン・マネジメント: 調達と製販統合 第15回: 国際人的資源管理			
*進捗状況などに応じて、授業計画を変更する場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 講義前・講義後には、テキストの関連内容について予習・復習するのを薦める。			
教科書・参考書等 教科書: ・大木清弘(2017)『コア・テキスト 国際経営』新世社。2,500円(教科書は、受講生が各自で入手すること。) 参考書: ・中川功一・林正・多田和美・大木清弘(2015)『はじめての国際経営』有斐閣。1,800円 ・浅川和宏(2003)『グローバル経営入門』日本経済新聞社。2,800円 ・江夏健一・桑名義晴編(2012)『理論とケースで学ぶ国際ビジネス(三訂版)』同文館出版。3,000円 ・安室憲一(2007)『新グローバル経営論』白桃書房。3,500円 ・吉原英樹(2011)『国際経営(第3版)』有斐閣。2,000円 ・吉原英樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和宏編(2013)『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣。2,800円			

オフィスアワー 特に定めない。事前にe-mail等でアポイントメントを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
授業中の私語と携帯電話の使用を慎むこと。

ナンバリングコード B3BSN-becE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 323140) 流通システム論B Distribution System Theory B	科目区分	時間割 前期金4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 becE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 渡邊 孝一郎	関連授業科目	流通システム論A、マーケティング論A, B	
	履修推奨科目	経営学関連科目	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習			
授業の概要 現代の経済社会において快適な日常生活を送るためには流通は欠かせない。ただ、この快適な生活を支えている流通システムは革新的な事業者が絶え間ない試行錯誤によって生み出してきたものである。そこで本講義では、近年の流通を支える新業態の革新性の理解から始まり、流通システムと大きく連動している政治的・社会的背景等に焦点を当てていく。			
授業の目的 近年の新業態の革新性・意義・特徴等の理解から始まり、流通システムを取り巻く社会的・歴史的・理論的背景を理解することで流通システムのダイナミクス性をより深く理解していく。そして最終的にはこれからの流通システムの在り方について共に考える。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
この講義の到達目標は以下の4つである。 1. 流通システムに関する基礎的な知識・理論を習得できる 2. 近年の流通システムの革新性を理解できるとともに流通システムの現状把握や問題点を理解できる 3. 流通システムに関する抽象的概念と具体的事例を結びつける論理的思考力を身につけられる 4. 日常の出来事について、流通・流通システムの視点から考えることができる			
成績評価の方法と基準 評価方法は講義への理解度(15%)、中課題(15%)、最終試験(70%)で判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 (1)はじめに：講義オリエンテーションと、流通システムに対する関心を引き出します (2)流通システムの理論的理解：流通システムに関する理論について学びます (3)小売業態の革新：①家電量販店：「ヤマダ電機」を例に家電量販店の革新性について学びます (4)小売業態の革新：②均一価格店：「ダイソー」を例に均一価格店の革新性について学びます (5)小売業態の革新：③総合ディスカウントストア：「ドン・キホーテ」を例に総合DSの革新性について学びます (6)小売業態の革新：④衣料専門店：「ユニクロ」を例に衣料専門店の革新性について学びます (7)小売業態の革新：⑤家具専門店：「ニトリ」を例に家具専門店の革新性について学びます (8)小売業態の革新：⑥ドラッグストア：「マツモトキヨシ」を例にDgSの革新性について学びます (9)小売業態の革新：⑦オンラインモール：「楽天市場」を例にネット通販の革新性について学びます (10)流通システムの発展：ロジスティクス：物流の新しい形であるロジスティクスについて学びます (11)流通システムの背景：流通政策との関係：政策が流通システムにどのような影響を与えてきたか学びます (12)流通システムの現状：海外の流通システム：海外の流通システムの現状と課題について学びます (13)流通システムの課題：①まちづくりと流通システム：近年注目されているまちづくりと流通の関係性を学びます (14)流通システムの課題：②災害と流通システム：災害時に求められる流通機能について学びます (15)おわりに			
【自学自習に関するアドバイス】 事前学習：身のまわりの流通活動や市場の動きに日頃から関心を持ち、興味を持ったものをメモすること 事後学習：次の講義までに、配布プリント・参考書等の該当箇所をふりかえり、自身の講義ノートを補完すること 教科書・参考書等 教科書：特に指定なし。(講義中配布のプリントで対応) 参考書：①石原武政・竹村正明・細井謙一編著(2018)『1からの流通論 第2版』碩学舎(2400円＋税) ②崔相鐵・岸本徹也編著(2018)『1からの流通システム』碩学舎(2400円＋税)			
オフィスアワー 特に定めない。事前にe-mailでアポイントをとること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 私語をはじめとする授業の妨げとなる行為、また授業参加への意欲が著しく低下している学生については、教育的指導を行う。 なお、この講義は流通システム論Aと関連しており、流通システムをより理解するためにも引き続き流通システム論Aを履修することが望ましい。			

ナンバリングコード B3BSN-bacE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 323490) 株式会社会計 Corporate Accounting	科目区分	時間割 前期金2	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bacE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 朴 恩芝	関連授業科目	会計関連科目	
	履修推奨科目	簿記入門、会計学総論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 この授業では企業の経済活動をまとめた財務諸表を分析する方法について学習します。企業の経済状況を把握するために、利害関係者、とりわけ資金提供者である投資家は会計情報を利用します。企業の財務諸表を分析することによって、投資に有用な情報を得て意思決定を行います。ここでは、企業の財務諸表を、株主の立場、債権者の立場、その他多様な視点での分析を行います。			
授業の目的 本授業では次のような目標を設定してみました。目標達成に向けてともに頑張りましょう。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 会計の基本仕組みを学習することで、企業の財務情報の全体像が理解できる。 2. 目的によって、企業の財務情報を多様な視点から分析することができるようになる。例えば、(1) 利益獲得能力などについては「収益性分析」、(2) 企業の資金調達・運用の「安全性分析」、(3) 不確実性にかかわる「リスク分析」を通して、企業の状況を把握することができる。 			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 会計情報のもつ意味を理解することができます。 2. 企業活動が財務諸表にどのように表れ、分析をとおしてどう読み取るのかその方法を身に着けることができます。 3. 同じ企業の情報であって、どんな立場、視点をもつかによって、異なる投資意思決定をすることができます。 			
成績評価の方法と基準 受講態度(10%)、期末試験(90%)による総合的評価(場合によっては中間テスト、小テストあり) 受講のマナーを守ってください。守らない場合は単位を認めません。 なお、受講態度とは出席を意味するものではなく、授業での態度のことを言います。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
財務諸表分析では、理論についての講義とともに、実際のデータや練習問題を通して、分析能力を身につけさせます。なお、授業の進捗状況によって、内容は変更することがあります。 <ol style="list-style-type: none"> 1 会計学の基礎 2 財務諸表の役割と企業活動 3 連結財務諸表の構造 4 キャッシュ・フロー計算書の構造 5 財務諸表分析の基礎 6 財務諸表分析－収益性 7 財務諸表分析－安全性 8 財務諸表分析－リスク分析 9 財務諸表分析－成長性分析 10 実際のケース① 11 実際のケース② 12 投資意思決定有用性 13 株式価値評価モデル① 14 株式価値評価モデル② 15 まとめ 			
教科書・参考書等 参考書 桜井久勝『財務諸表分析(最新版)』中央経済社 必要に応じて随時指示します。			
オフィスアワー 木曜 3限			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 簿記や会計基礎の知識があると、より授業内容が分かりやすくなります。事前に必要な基礎内容を学習してからの受講が望ましいです。 なお、講義初日には必ず出席してください。必要な注意事項や講義計画、試験などに関する説明を行います。			

ナンバリングコード B3BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 323163) 監査論 Auditing	科目区分	時間割 前期火2	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 井上 善弘	関連授業科目	簿記入門 会計学総論 株式会社社会計 財務会計論A 財務会計論B	
	履修推奨科目	簿記入門 会計学総論 株式会社社会計 財務会計論A 財務会計論B	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 財務諸表監査の基本的な概念と方法論について学ぶ。併せて、財務諸表監査が経済社会において果たす役割について理解する。			
授業の目的 財務諸表監査の基本的な概念と方法論について学ぶ。併せて、財務諸表監査が経済社会において果たす役割について理解する。(知識・理解, 問題解決・課題探究能力, 倫理観・社会的責任)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
財務諸表監査の基本的な概念と方法論, 財務諸表監査が経済社会において果たす役割について理解することができる。(知識・理解, 問題解決・課題探究能力, 倫理観・社会的責任)			
成績評価の方法と基準 中間試験40% 期末試験60%。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回	監査:社会的概念		
第2回～第3回	監査公準		
第4回～第5回	専門能力		
第5回～第7回	独立性と職業倫理		
第6回～第9回	監査手続と監査証拠		
第10回～第12回	監査報告		
第13回～第14回	重要性		
第15回	品質管理		
<p>授業の進捗度合により上記計画を変更する場合がある。なお、毎回補助プリントを配布する。また、授業内容に連続性が高いため、次回の授業までに授業の内容をしっかりと復習しておくことが重要である。</p>			
教科書・参考書等 デヴィッド・プリント著, 井上善弘訳『監査の原理と原則』創成社, 2018年, 2592円(税込)			
オフィスアワー 授業終了後随時受け付ける。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回授業に出席してください。教科書は事前に必ず購入しておいてください(初回の授業から使用)。			

ナンバリングコード B3BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 323500) 原価計算論 Cost Accounting	科目区分	時間割 後期末4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 宮脇 秀貴	関連授業科目	会計・経営関連の授業科目	
	履修推奨科目	管理会計関連の授業科目	
学習時間 講義90分×15回+自主学习			
授業の概要 マクドナルドは、その昔、なぜ、ハンバーガーの平日半額セールを行うことができたのでしょうか？マーケティング戦略もさることながら、実は、彼らは周到な「コスト戦略」を行っているのです。このコスト戦略を解き明かすキーワードは、「原価のしくみ」と「原価の計算の仕方」、つまり「原価計算」です。 本講義では、基本的な原価計算の方法とその応用の仕方を学習していきます。これにより、企業の意志決定を支えるコスト(原価)面の「からくり」を理解できるでしょう。なお、前提として原価計算と工業簿記の基礎知識を持っていると、授業内容を理解しやすいと思います。			
授業の目的 企業では、どの部署で働いていても、またどのような相手と交渉する時でも、常に「原価(コスト)」の意識を持って意志決定が行われている。この授業では、原価計算の基本的な知識を深めるとともに、ケース問題をグループワークで解くことなどを通して、様々な場面での意志決定を体験する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
企業の利益計画などの意志決定に必要な原価計算の理論を理解し計算できる。			
成績評価の方法と基準 <サバイバルテスト制(Sテスト)> ※4回のSテストの平均点が、90点以上ならば「秀」、80点以上90点未満であれば「優」、70点以上80点未満は「良」、60点以上70点未満は「可」、60点未満は「不可」とします。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 [授業の方法] 口述筆記、板書、プリント配布 [授業計画] (第1～3週) 工業簿記・原価計算の基礎、材料費の計算 (第4週) サバイバルテスト① (第5～7週) 労務費(応用)・経費の計算 (第8週) サバイバルテスト② (第9～11週) 利益計画、損益分岐点分析、直接原価計算 (第12週) サバイバルテスト③ (第13～14週) 設備投資計画 (第15週) サバイバルテスト④			
教科書・参考書等 [教科書] ・宮脇秀貴「工業簿記の基礎」セキ株式会社(原価会計論で使用したもの) ・プリント配布(各自でダウンロードしてもらいます) [参考書] ・溝口一雄「例解工業簿記」中央経済社 ・溝口一雄「最新原価計算講義」中央経済社 ・岡本 清「原価計算」国元書房			
オフィスアワー 毎週水曜日15:30～17:00(ただし、会議などでない場合あり)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ (1)前提として、工業簿記と原価計算の基本を理解していること。 (2)1年次に原価会計論、2年次に原価計算基礎論を受講していることが望ましい。			

ナンバリングコード B3BSN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 323200) コストマネジメント論 Cost Management	科目区分	時間割 前期木3	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 朴 鏡杓	関連授業科目	原価会計論	
	履修推奨科目	管理会計論	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習			
授業の概要 コストマネジメントの目的は、利益業績を改善することにあります。本講義ではコストマネジメントの基本的な概念、考え方などを学習し、なぜ、利益業績の改善にコストに着目するのかについて考えていきます。さらに経営の様々な目的のために実践される原価計算技法について学び、問題の演習や事例の分析を通して原価計算やコストマネジメントに関する知識の習得を目指します。			
授業の目的 コストマネジメントの基礎をなす諸概念と技法を正確に理解し、習得する(DPの「知識・理解」に対応)とともに、コストの視点から問題の諸側面を考察し、その解決策を提示できるようになる(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 原価計算及びコストマネジメントにおける原価の諸概念を説明できる。 2. 財務諸表作成のための原価計算手法を理解し、製品原価の計算ができる。 3. コストマネジメントのための原価計算手法及びコスト情報を活用できる。			
成績評価の方法と基準 レポート(0~10%)、中間テスト(40~50%)、期末テスト(40~50%)の成績などを総合的に評価して最終成績を決定します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 口述筆記、プリント、Power Pointなどを活用して説明します。			
第1回 イン트로ダクション(授業の概要と進め方)			
第2回 原価計算と原価			
第3回 材料費の計算			
第4回 労務費・経費の計算			
第5回 製造間接費の計算			
第6回 部門別計算			
第7回 中間テスト			
第8回 原価計算の目的と体系			
第9回 個別原価計算			
第10回 総合原価計算①			
第11回 総合原価計算②			
第12回 標準原価計算①			
第13回 標準原価計算②			
第14回 直接原価計算			
第15回 意思決定のための原価計算			
第16回 期末テスト			

教科書・参考書等

建部宏明・山浦裕幸・長屋信義『基本原価計算（第5版）』同文館出版、2018年（生協書籍部にて購入）

オフィスアワー 月曜日13時~14時の間、朴研究室において随時、質問・相談などに応じます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業計画は、授業の開始時点での予定であり、開始後の進捗状況により変更する場合があります。

ナンバリングコード B3BSN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 323531) サービス・マーケティング論 Service Marketing	科目区分	時間割 後期末2	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 趙 命来	関連授業科目	マーケティング論A, B	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 サービス・マーケティングは、サービス産業の発展とともに、1970年代に登場した、比較的新しい学問である。近年、サービス・マーケティングの発想は製造企業にも適応されるほど独自の学問体系を確立している。サービス・マーケティングはサービスをどのようにお客さまに販売し、満足していただくか、サービス販売に適した仕組みをどのように準備するか、といった課題を扱う学問である。本講義は、サービス・マーケティングを初めて学ぼうとする人たちに対して基礎的な内容を解説する。			
授業の目的 サービス概念に焦点を当て、サービスによって成り立っている企業の事例を取り上げながら、サービスがどのような価値を生み出しているのかを理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. サービス・マーケティングの発想や基礎概念が理解できる。 2. サービス・マーケティングがわれわれの生活とどのような関わりをもつかが理解できる。 3. 現場でサービス・マーケティングをうまく実践するための理論が理解できる。			
成績評価の方法と基準 レポート20%、小テスト30%、期末試験50%により評価する。詳細は初回の授業で説明する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回 サービス・マーケティングの特徴 第2回 顧客経験マネジメントの仕組み 第3回 情報化時代への対応 第4回 サービス行為の計画と生産 第5回 サービス設備環境のデザイン 第6回 人的要素の活用 第7回 顧客ミックスの管理 第8回 サービスの価格設定 第9回 双方向的サービス経験のプロモーション 第10回 サービス品質と保証 第11回 顧客からの信頼獲得とサービス・リカバリー 第12回 サービスの成功と失敗を調査する方法 第13回 サービスのためのマーケティング戦略の策定 第14回 サービスにおける需要変動への対応 第15回 サービスのグローバル戦略 【自学自習に関するアドバイス】 基本的にテキストに沿って進むので事前に予習すること。			
教科書・参考書等 初回の講義で紹介する。			
オフィスアワー 随時、研究室にて受け付けます。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 成績評価などの履修上注意事項の説明を行うため、第1回目の授業に必ず出席すること。 受講マナー（私語、遅刻）を守る。			

ナンバリングコード B3BSN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 321014) 財務会計論B Financial Accounting B	科目区分	時間割 後期火3	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 繁本 知宏	関連授業科目	財務会計論A、会計学総論、株式会社社会計、簿記入門、経営財務論、監査論	
	履修推奨科目	会計学総論、株式会社社会計、簿記入門、経営財務論、監査論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(予習・復習とも各90分以上)			
授業の概要 本授業では、前半で連結財務諸表の意義と構造を学び、後半で連結財務諸表を用いた財務分析を学ぶ。連結財務諸表は個別財務諸表をもとに作成される企業グループの決算書であり、本授業の内容を理解するためには一定以上の簿記・会計の知識が必要である。他方、後半で学ぶ財務分析は、大きく分けると、企業の外部環境(マクロ経済、産業)の分析、企業プロフィールの分析、財務情報の分析の3つから成る。前2者は経済・産業・企業に対する広い視野と知識が必要であり、財務情報の分析は財務諸表を読解する能力が必要である。このため、本授業の受講者としては、経済、企業、簿記、会計の基礎知識と強い学習意欲を備えている学生を想定している。 なお、財務会計論A(2019年度は休講)と財務会計論Bは並列の位置付けにあって連続性はないため、どちらを先に履修しても問題ない。			
授業の目的 会計学を深く学ぶ意欲のある学生が、現代のディスクロージャーの中心である連結財務諸表の意義や構造、作成方法を理解した上で、財務分析の基本的な考え方や財務諸表の読解力を習得し(DPの知識・理解に該当)、そこから自らが解決すべき課題を見出し、的確な解決策を文章で説明できるようになることが(DPの問題解決・課題探求能力、言語運用能力に該当)、本授業の目的である。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 連結財務諸表の意義や特徴を適切に説明できる。 2. 連結精算表を用いて、連結貸借対照表と連結損益計算書を作成できる。 3. 初歩的な財務分析ができる。			
成績評価の方法と基準 期末試験60%、レポート40%			
授業計画並びに授業及び学習の方法 (授業計画) 第 1 回: オリエンテーション、会計の役割の復習 第 2 回: 連結会計の意義、連結の範囲 第 3 回: 連結貸借対照表(資本) 第 4 回: 連結貸借対照表(資産、負債) 第 5 回: 連結損益計算書(税引前利益まで) 第 6 回: 連結損益計算書(税引前利益以降)、連結包括利益計算書 第 7 回: 持分法 第 8 回: 連結キャッシュ・フロー計算書 第 9 回: 注記 第 10 回: 連結財務諸表と個別財務諸表の比較 第 11 回: 財務分析の流れ 第 12 回: マクロ経済分析、産業分析、財務以外の企業分析 第 13 回: 財務指標の意味と計算方法(成長性、収益性、生産性) 第 14 回: 財務指標の意味と計算方法(安全性、効率性) 第 15 回: 財務分析のまとめ なお、この計画は実際の進捗に応じて適宜変更することがあり得る。			
授業中に計算を行うことがあるため、毎回電卓を持参すること。携帯・スマホ等の電卓機能の使用は禁止する。			
(注意事項) 連結財務諸表を理解するためには簿記・会計に関する一定以上の知識が必要である。本授業では受講生がそうした知識を備えていることを前提として講義を行い、簿記・会計の基礎に立ち戻って説明することはしない(時間もない)。自信がない者は、キャッチアップするために、かなりの自学自習が必要となる点に注意されたい。			

<p>(学習方法)</p> <p>連結財務諸表を理解するためにはかなりの時間の復習が必要である。また、財務分析を習得するためには、探究心と企業に対する関心ならびに自分で実際に手を動かしてみることが不可欠である。このため、授業に出席するだけ、授業を聴いているだけでは単位取得は困難である。十分な自学自習の時間を確保し、能動的に学習に取り組むことができる学生の受講を期待する。</p>
<p>教科書・参考書等</p> <p>初回授業時に指示する。</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>初回授業時に指定する。ただし指定時間以外であっても、事前に連絡があれば随時学習相談に応じる。</p>
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</p> <p>講義中の私語や携帯・スマホの使用（カメラ機能の使用を含む）をはじめ、他人の勉学の権利を害するような行為は厳に慎むこと。そうした行為には厳正に対処する。成績調査は正規の手続を踏むこと。</p>

ナンバリングコード B3BSN-cbdE-30-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 323693) (特) 実践で学ぶ地域密着型ビジネスA Special Lecture	科目区分	時間割 前期水4~5	対象年次及び学科 1~経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 藤村 和宏, 宮脇 秀貴, 松岡 久美	関連授業科目	(特) 実践で学ぶ地域密着型ビジネスB、 経営関連科目	
	履修推奨科目	マーケティング論A、マーケティング論B、 経営組織論、経営戦略論、原価会計論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 本講義では、理論と実践の対話を通じて地域密着型ビジネスの基礎を学びます。講義は、香川県に本社を置く“あなぶきグループ”と協働で開講するものであり、CS（顧客満足）やマーケティングの側面から、各業界の動向ならびに企業における実務上の課題や問題解決の方法について、現場体験や講義、受講生同士および受講生と同グループの社員が議論を行うことにより学習する。講義終盤では、授業で学んだ内容を踏まえた上で、業界や企業の今後のあるべき方向性について、学生グループによる企画提案を行う。			
授業の目的 企業の付加価値は、市況および競合を見据えた戦略と顧客に受け入れられる価値提供によって成り立っている。本講義では、現場体験や第一線で事業展開に関わっているゲスト講師からの解説を交え、地域密着型の経営を具現化する為に、CS（顧客満足）やマーケティングが実際の事業遂行場面でどの様に具現化されているのかを学ぶとともに、今後の事業や企業活動のあるべき方向性について探求することを目的としている（学士課程のDP「問題解決・課題探求能力」「知識・理解」に対応）。さらに、実社会における企業の事業活動をより身近に感じてもらい、受講生が社会に出た際に役立つ経験をしてもらうことを目的としている（学士課程のDP「倫理観・社会的責任」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 新聞や専門誌のマーケティングやCSに関する記事を理解できる。 2. 企業が直面する課題をマーケティングやCSの側面も含めて多面的に理解できる。 3. 課題を発見・探求し、その解決に向けて思考できる主体性や積極的な姿勢が身につく。			
成績評価の方法と基準 成績評価は、以下の4項目の合計点によって行う。 ①毎回の講義ごとに課すレポート (30点) ②最終レポートあるいは最終プレゼンテーション (30点) ③ディスカッションへの貢献度 (30点) ④取組み姿勢 (10点)			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画並びに授業及び学習の方法】 あなぶきグループが展開する3つの事業分野（マンション分譲、その他不動産、ホテル、施設運営部門）を具体的な事例として取り上げ、施設見学、事業展開に関わっている社員からの解説、ディスカッションを1つのモジュールとして授業を実施する。各業界の動向、各業界におけるCSやマーケティングの考え方が事業展開の中でどのように実践されているかを体験する。なお、専門分野の異なる教員3名（藤村、宮脇、松岡）も講義に参加し、各専門分野の観点からコメントや問題点の整理、議論の促進などを行うことにより、多面的に理解できるように支援する。			
第1回	イントロダクション：グループ事業のイントロダクションと各業界の動向		
第2・3回	ホテル、施設運営部門① ホテル施設見学 ホテル、施設運営部門② ホテル部門（講義）		
第4・5回	ホテル、施設運営部門③ 県民ホール等施設見学 ホテル、施設運営部門④ 公民連携事業部（講義）		
第6・7回	マンション事業① モデルルーム等施設見学 マンション事業② マンション営業本部（講義）		
第8・9回	マンション事業③ マンション開発本部（講義） マンション事業④ ディスカッション		
第10・11回	マーケティング戦略 CS (Customer Satisfaction)		
第12・13回	その他不動産① 民泊・簡易宿所施設見学 その他不動産② その他不動産に関して（講義）		
第14・15回	学生からの提案発表・まとめ		
*本講義は、2コマ連続・隔週で実施する。講義開始時にスケジュール表を配布する。 *各講義で取り上げる事業分野や施設訪問については、順番や対象が変更となる場合がある。			

【自学自習についてのアドバイス】

各業界の特徴や現状について、自分自身で事前に調べておくこと。

教科書・参考書等

基本資料は講義ごとに配布する。参考文献等は随時指示する。

オフィスアワー 授業後に質問に応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- 「(特) 実践で学ぶCS・マーケティングA」の単位を取得済みの学生は、本講義を受講できない。
- 施設訪問等、学外での活動を伴うため、学研災・学研賠あるいは同等の保険に加入していることを受講の条件とする。
- 班編成によるディスカッションと発表を行うことから、最大募集人数は約40名とする。人員超過の場合は調整を行う。選考手続きについては、掲示板に掲示する。
- 遅刻厳禁。10分以上遅れた場合、講義の妨げになるので、入室を禁止する。

ナンバリングコード B3BSN-cbdE-30-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 323694) (特) 実践で学ぶ地域密着型ビジネスB Special Lecture	科目区分	時間割 後期水4~5	対象年次及び学科 1~経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 藤村 和宏, 宮脇 秀貴, 松岡 久美	関連授業科目	(特) 実践で学ぶ地域密着型ビジネスA、 経営関連科目	
	履修推奨科目	マーケティング論A、マーケティング論B、 経営組織論、経営戦略論、原価会計論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 本講義では、理論と実践の対話を通じて地域密着型ビジネスの基礎を学びます。講義は、前期開講の「(特) 実践で学ぶ地域密着型ビジネスA」の後編として、香川県に本社を置く“あなぶきグループ”と協働で開講するものであり、CS（顧客満足）やマーケティングの側面から、各業界の動向ならびに企業における実務上の課題や問題解決の方法について、現場体験や講義、受講生同士および受講生と同グループの社員が議論を行うことにより学習する。講義終盤では、授業で学んだ内容を踏まえた上で、業界や企業の今後のあるべき方向性について、学生グループによる企画提案を行う。			
授業の目的 本講義では、現場体験や第一線で事業展開に関わっているゲスト講師からの解説を交え、地域密着型の経営を具現化する為に、CS（顧客満足）やマーケティングの考え方が、実際の事業遂行場面での様に具現化されているのかを学ぶとともに、今後の事業や企業活動のあるべき方向性について探求することを目的としている（学士課程のDP「問題解決・課題探求能力」「知識理解」に対応）。さらに、実社会における企業の事業活動をより身近に感じてもらい、受講生が社会に出た際に役立つ経験をしてもらうことを目的としている（学士課程のDP「倫理観・社会的責任」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 新聞や専門誌のマーケティングやCSに関する記事を理解できる。 2. 企業が直面する課題をマーケティングやCSの側面も含めて多面的に理解できる。 3. 課題を発見・探求し、その解決に向けて思考できる主体性や積極的な姿勢が身につく。			
成績評価の方法と基準 成績評価は、以下の4項目の合計点によって行う。 ①毎回の講義ごとに課すレポート (30点) ②最終レポートあるいは最終プレゼンテーション (30点) ③ディスカッションへの貢献度 (30点) ④取組み姿勢 (10点)			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画並びに授業及び学習の方法】 あなぶきグループが展開する4つの事業分野（ハウジング、シニア事業、トラベル事業、人材サービス事業）を事例として取り上げ、施設見学や事業展開に関わっている社員からの解説、ディスカッションを1つのモジュールとして授業を実施する。各業界の動向、各業界におけるCSやマーケティングの考え方が事業展開の中でどのように実践されているかを体験する。なお、専門分野の異なる教員3名（藤村、宮脇、松岡）も講義に参加し、各専門分野の観点からコメントや問題点の整理、議論の促進などを行うことにより、多面的に理解できるように支援する。			
第1回 イントロダクション：グループ事業のイントロダクションと各業界の動向 第2・3回 ハウジング事業① 施設見学 PMアカデミー ハウジング事業② 管理研修施設（講義） 第4・5回 ハウジング事業③ マンション分譲管理事業（講義） ハウジング事業④ マンション賃貸仲介事業部（講義） 第6・7回 シニア事業部① シニア施設見学 シニア事業部② シニア事業部（講義） 第8・9回 スーパーマーケット事業① スーパーマーケット事業（講義） スーパーマーケット事業② ディスカッション 第10・11回 人材サービス事業① 物流、オフィス施設見学 人材サービス事業② 人材サービス（講義） 第12・13回 トラベル事業① トラベル事業（講義） トラベル事業② ディスカッション 第14・15回 学生からの提案発表・まとめ ＊本講義は2コマ連続・隔週で実施する。講義開始時にスケジュール表を配布する。 ＊各講義で取り上げる事業分野や施設訪問については、順番や対象が変更となる場合がある。			

【自学自習についてのアドバイス】

各業界の特徴や現状について、自分自身で事前に調べておくこと。

教科書・参考書等

基本資料は講義ごとに配布する。参考文献等は随時指示する。

オフィスアワー 授業後に質問に応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- 「(特) 実践で学ぶCS・マーケティングB」の単位を取得済みの学生は、本講義を受講できない。
- 施設訪問等、学外での活動を伴うため、学研災・学研賠あるいは同等の保険に加入していることを受講の条件とする。
- 班編成によるディスカッションと発表を行うことから、最大募集人数は約40名とする。人員超過の場合は調整を行う。選考手続きについては、掲示板に掲示する。
- 遅刻厳禁。10分以上遅れた場合、講義の妨げになるので、入室を禁止する。

ナンバリングコード B3BSN-abcE-30-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 323684) (特) Globalization in the higher education sector: trends, issues, and strategies Special Lecture Globalization in the higher education sector: trends, issues, and strategies	科目区分	時間割 前期金3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 ロン リム	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 The focus of this course is on the global higher education sector. First, we take a look at the mobility trends of students in the global arena. The class then moves on to probe on the case of Japan. Specifically, we look at the issues and problems Japan faces in her attempt to host international students, and to send Japanese students overseas. We shall then look at some pertinent phenomenon in the global education sector, such as university rankings, and brain-drain. Finally, students work in groups to make country reports at the end part of the semester.			
授業の目的 This course aims to equip students with the knowledge to understand the phenomenon of globalization in the area of higher education. In particular, students shall learn to equip themselves by working in teams to deepen their knowledge on the issues involved.			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
At the end of the course, students should be able to… 1. Understand the trends in the sector across the globe 2. Understand the issues and problems faced by Japan in hosting international students, and sending Japanese students overseas 3. Come up with their own ideas on how to respond to those issues mentioned above			
成績評価の方法と基準 Class participation 40 points Final presentation 30 points Final report 30 points Five (5) points shall be deducted from each unauthorised class absence. There is no final examination for this course.			
授業計画並びに授業及び学習の方法 1. Orientation of the course, expectations of students and lecturer 2. 'Globalization' and what it means in the higher education sector 3. Global Flow of Tertiary-Level Students: some statistics 4. Global Flow of Tertiary-Level Students: some statistics (cont.) 5. Trends in the higher education sector in Japan 6. Trends in the higher education sector in Japan (cont.) 7. Issues and problems faced by Japan 8. Issues and problems faced by Japan (cont.) 9. University rankings 10. University rankings (cont.) 11. Issue of brain drain 12. Issue of brain drain (cont.) 13. Student presentation 14. Student presentation 15. Student presentation The course content may be altered to adapt to the number or learning capacity of the students. International students will also participate in this class. Student presentations are conducted through groups so as to foster interaction and encourage rapport among international and Japanese students.			
教科書・参考書等 Lecture materials are sourced from online data bases and students shall be advised on such links accordingly.			
オフィスアワー Every Tuesday, 13:30-14:30 Prior appointment is highly recommended.			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ Class attendance is mandatory. Students are required to prepare for class by reading the material prior to coming for class.			

ナンバリングコード B3SCL-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332050) 言語学概論 Linguistics	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 黒木 邦彦	関連授業科目	あらゆる外国語科目	
	履修推奨科目	あらゆる外国語科目	
学習時間 (講義60分 + 質問10分 + 応答20分) × 14回 + 試験90分			
授業の概要 日本語といくつかの他言語とを観察し、言語が (i) 世界を切り分けるための道具たること、(ii) 建築物のように形状と構造とを有していること、(iii) 自身の変化を左右するほどに、種々の表現を体系化していることを学ぶ。			
授業の目的 (i) 日本の言語教育において軽視されている言語学の基礎知識を理解すること、(ii) 物事を多角的に観察し、科学的手法によって分析する力を身に付けること、(iii) 構造や体系がどのようなものであるかを理解すること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(i) 日本の言語教育において軽視されている言語学の基礎知識を理解し、他者に伝えられること。 (ii) 物事を多角的に観察し、科学的手法によって分析できること。 (iii) 構造や体系がどのようなものであるかを理解し、他者に伝えられること。			
成績評価の方法と基準 毎回提出する質問: 20% 計3回の課題: 30% 試験: 50%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
授業は5日間の集中講義形式で行なう。授業資料は配布するが、板書も多用するので、理解のために必ず筆記すること。双方向的授業を成すため、毎回最後に質問を提出してもらい、次の回でそれらに回答する。授業で教授する、言語の形状および構造を掴むための方法に基づいて、具体例を自分で (或いは、友人と協力して) 分析すること。			
1	言語と思考との関係		
2	音声の有契性		
3	音声と文字との関係		
4	文とその構造		
5	語とその構造		
6	音節とその構造		
7	分節音		
8	超分節音		
9	形態音韻論		
10	外来語の借用		
11	動詞類の活用		
12	活用体系の変遷		
13	時間表現: 相と時制 (aspect, tense)		
14	相・時制体系の変遷		
15	試験		
教科書・参考書等 教員が(作成・)配布する資料のみ。			
オフィスアワー 毎授業後。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 孤独を愛し、誰とも会話しない人間であっても、言語は絶え間無く使っている。このこと (特に、会話せずとも言語は使うということ) を不思議に思った人は、是非とも受講を。 なお、言語学と外国語学 (英語、中国語、フランス語などの勉強) とは、全くではないものの、相当に異なるので、注意。また、言語学で言うところの文法も、国語教育のそれとは大きく異なる。したがって、国語や外国語を得意としている/いたからと言って、言語学で良い成績を挙げるとは限らない。反対に、国語も外国語も苦手としている/いた学生が言語学で開花することも、少なからず有る。			

ナンバリングコード B3SCL-bceE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332131) 文化人類学 Culture Anthropology	科目区分	時間割 後期末1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 緒方 宏海	関連授業科目	社会調査法	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 文化人類学とは、一言でいえば「他者」を理解する技法である。より具体的には「他者」の有する観念と行動を翻訳する技法である。それは、異文化に対する理解や異なる文化を持つ人々の生活様式を記述し、理解する技法とも言える。本講義では文化人類学の基礎的な理論と方法を習得し、且つ現代社会を理解する上で不可欠なテーマ、宗教、経済、観光、死の人類学などをサブテーマとする。			
授業の目的 この授業の目的は、文化人類学で検討されてきた主要な理論と方法論をたどりながら、文化人類学的な視点・考え方を体系的に学ぶとともに、「他者」を理解しようという文化人類学的視点から、自分自身がもっている思い込みや常識をいったん括弧に括って客観的に見つめ直す作業を行うことにある。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 文化人類学の基本的な視点、考え方、理論を習得する。 2. 文化人類学の視点から具体的な事例を検討することによって、文化と社会の多様性を理解する。 3. 上記のことを通じて、異文化とともに自分の属する社会と文化について深く理解し分析する能力を身につける。			
成績評価の方法と基準 講義中に課すリアクション・ペーパーと学期末の筆記試験をもとに成績を総合評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1週 インTRODクシヨンー文化人類学の共通関心と基本作業 第2週 類人猿とヒトの違いは何か？ー文化の進化・文化の伝播 第3週 衣服の起源は羞恥心からか？ー経済の技術・生活の技術 第4週 「文化的他者」と社会の見方ーイギリスの社会人類学の礎とアメリカの文化人類学 第5週 男になる女になる性をゆさぶる「第三の性」ージェンダー・性別役割・セクシュアリティ 第6週 冥婚・事実婚・同性婚・一夫多妻婚ーさまざまな婚姻のかたち 第7週 血のつながりと「親子の関係」、祖先のつくり方ー世界の家族と親族 第8週 宗教とはなにか？呪いは効くのか？ー宗教の形態、呪術、邪術、妖術 第9週 「異界」のつくりかたー死の表象と霊魂、憑依、シャーマニズム 第10週 なぜ人食いをするのか？ー生と死、カニバリズム、死の人類学 第11週 人がなぜ人の首を狩るのか？ーアジアにおける首狩りの社会史 第12週 なぜ「贈り物」と「お返し」をするのか？ー贈与と交換、経済人類学 第13週 日本はどのように語られたか？ー海外の文化人類学的・社会学的日本研究 第14週 「文化」の売り方と買い方ー民族と観光、観光人類学 第15週 まとめ			
教科書・参考書等 ハンドアウトを配布する。 参考文献は講義時に適宜紹介する。			
オフィスアワー 水曜日14時から17時、南キャンパス2号館3階緒方宏海研究室。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業中にリアクション・ペーパーの執筆を課す回がある。 授業で紹介する参考文献をもとに自主的に研究するよう努めてください。			

ナンバリングコード B3SCL-bceE-30-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 332240) ヨーロッパ社会経済史 Economic History of European Society	科目区分	時間割 後期火2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 村山 聡	関連授業科目	経済史入門 日本社会経済史	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 ヨーロッパとは何か。社会経済史においてヨーロッパを対象とすることの意味は何か。世界で最初の国民国家を誕生させ、世界で最初に産業革命を押し進めたのもヨーロッパである。しかし今や世界は経済の世紀から環境の世紀への転換を模索をしている。成長パラダイム (=共有する思考法) から持続性パラダイムへの転換が課題である。最新の環境史研究の成果を踏まえながら、ヨーロッパを題材に、的確な映像資料なども用いながら、環境史研究に関する教科書を駆使して、経済史研究の今後の課題を明らかにする。			
授業の目的 経済社会の将来を考える上でも、また、実際に経済活動や経済行動を行う上でも、歴史は偉大な実験場であり、社会経済史学という学問分野は想像以上に有益な情報を与えてくれる。しかし実は社会経済学という枠組みにおいて環境史を外においてしまった。地域社会の中で確実な将来展望を抱き、新たな環境の世紀に向けての行動をするための指針を得るためには環境史研究に基づき経済史研究の再構築が不可欠である。そこで、ヨーロッパ社会経済史学の現状を知ること、そして、現代の経済問題と密接に関係する環境問題に関して政策的対応あるいはその歴史的淵源について一定の評価や理解ができることを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①ヨーロッパ社会経済史学とは何かについて一般的な説明ができる。 ②過去と現在の経済現象の発生理由について比較環境史的な議論を理解できる。 ③現代社会の経済問題に関する環境史的背景について理論的に理解することができる。 ④過去と現在の経済現象に関する統計的データを吟味し、環境問題との関連において、一定の分析をすることができる。			
成績評価の方法と基準 授業時の調査票 (10%)、調査レポート (20%)、小課題レポート (30%)および最終レポート (40%)の提出により評価する。評価の詳細については、授業の最初の時間に説明する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 教科書として採用している『環境史入門』の各章について、最新のヨーロッパ社会経済史研究を念頭に、発表、討議、講義を組み合わせる授業を進めて行く。 第1回: ヨーロッパ社会経済史学の課題と現状 第2～3回: 環境史研究から見るヨーロッパ社会経済史 第4～12回: 地域と地球の環境史・経済史から展望するヨーロッパ 第13～15回: まとめと討議			
教科書・参考書等 教科書: J. ドナルド・ヒューズ『環境史入門』(岩波書店、2018年、3,024円) 参考書: ロンド・キャメロン/ラリー・ニール『概説 世界経済史1・2』(東洋経済新報社、2013年、3,672円+4,536円) および小野塚知二『経済史—いまを知り、未来を生きるために』(有斐閣、2018年、4,320円)			
オフィスアワー 学期中の毎週火曜日4時間目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 受け身で講義を聞くのではなく、授業に積極的に参加し、与えられた課題に真摯に対応することが求められる。			

ナンバリングコード B3SCL-bdcE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332040) ヨーロッパ社会論 European Society 現代ヨーロッパの社会変動	科目区分	時間割 後期水2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 bdcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 園部 裕子	関連授業科目	現代フランス研究など、ヨーロッパ関係の科目	
	履修推奨科目	現代フランス研究など、ヨーロッパ関係の科目	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自宅学習			
授業の概要 現在、ヨーロッパでは進行しつつあった統合のゆくえが問われつつある。統合はどのような歴史的過程のなかで発起され、どのような手続きを経て進展してきたのだろうか。また、統合とともにヨーロッパの〈内部〉や〈外部〉の間には、どのような変化が見られ、そこからどのような問題が生じてきたのだろうか。「ヨーロッパ」は決して一枚岩ではなく、多様な文化・言語・民族、制度をもつ個々の国家の間で、絶えず分裂と統合が繰り返されている、激動する社会である。また、ヨーロッパは常に外部社会との関わりの中で存在し、人や文化の交流があり、多くの移住者が流入している。そのなかで市民はいったいどのように行動しているのか。統合が目指す社会のあり方を探り、その過程で生じている社会変動について、具体的な事例をもとに検討する。			
授業の目的 社会科学の方法論をもってヨーロッパを分析する視点を養う。 現代ヨーロッパの統合の進展と、社会変動の課題を理解する。 ヨーロッパという社会が静的、固定的なものではなく、流動的で変動する社会であることを理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・ナショナリズムと国民国家、現代ヨーロッパ統合と市民社会についての基本用語を理解して使える。 ・現代ヨーロッパ社会における国家と地域の位置づけを理解する。 ・現代ヨーロッパ社会で起こっている変動について説明できる。 			
成績評価の方法と基準 ①出席と授業中の小レポート (30%)、②新書程度の課題図書を読んだ上で執筆する中間レポート (30%)、③論述形式の学期末試験 (40%) により総合的に評価する。 ①、②、③のいずれかの要素が不足していたり、そろっていても理解度、習熟度が極端に不十分な場合は、単位は認定されない。講義をもとに、自分で疑問をもち、問いを立ててそれについて調べたり読んだりしてオリジナルな視点から文章にまとめる訓練をどれだけ積んだかが評価される。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業および学習の方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義が中心になる。担当教員が現地調査中に収集した写真等の資料や、テーマに関連するビデオなどの視聴覚教材も利用する。 ・毎回の講義で学んだことを感想、質問、疑問などと共に小レポートにまとめてもらう。それをもとに次の授業で質疑応答やテーマに関する議論をしたい。 ・課題図書を読むことは、前提となる知識を身につけるために必要になる。 【重要】 まず講義内容を理解することが大前提（理解度は小レポートで把握する）。その上で受講者には、自分なりの疑問をもち、新聞を読んだりニュースを見たりする習慣を付け、文献を探して読むなど、自分で積極的に調べ、読み、行動し、考えることが求められる。そうした努力は、このシラバスを読んだ日から、始めておくことが望ましい。			
【講義計画予定（一部変更する場合がある）】 1 導入：国境とは何か？ 2 国民国家とヨーロッパ 1 3 国民国家とヨーロッパ 2 4 国民国家とヨーロッパ 3 5 統合の歩み 1 6 統合の歩み 2 7 ヨーロッパの地域と言語 1 8 ヨーロッパの地域と言語 2			

- 9 ヨーロッパの地域と言語 3
- 10 拡大交渉と〈外部〉 1
- 11 拡大交渉と〈外部〉 2
- 12 統合の理念と市民社会 1
- 13 統合の理念と市民社会 2
- 14 統合の理念と市民社会 3
- 15 まとめ

教科書・参考書等

ハンドアウトを用意する。

【参考書】

- ・大澤真幸・姜尚中編、2009『ナショナリズム論・入門』有斐閣アルマ
 - ・塩川信明、2008『民族とネーションーナショナリズムという難問』岩波新書
- その他、講義中に参考文献リストを配布する。

オフィスアワー

研究室：南3号館3階

オフィスアワー：講義中に指示する。事前にメールで予約のこと。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

最初の授業に出席して講義の流れを把握すること。小レポートを特別な理由なしに4回以上提出しなかった場合、中間レポート未提出の場合、レポート等でコピペなど不正が見つかった場合、それ以降の受講資格はないものとする。私語、居眠りなど講義に対して積極的な姿勢が見られない者は欠席扱いとし、退出させる。

ナンバリングコード B3SCL-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332041) アジア文化論 Asian Culture 東アジアの伝統と現代	科目区分	時間割 後期金2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 高橋 明郎	関連授業科目	中国文化論、アジア経済論、アジア社会論 外国語演習(中国語)	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 X 15回+自学自習			
授業の概要 この授業では、まず文化研究の様々な立場を紹介したうえで、東アジア、特に中国・台湾・日本の文化と社会についてについて、いくつかのトピックを切り口に、文化政策と関連させながら解説する。			
授業の目的 アジアは中東から日本にまでを含む非常に広大な地域である。この講義では日本を含む東アジアの文化と、それを生んだ背景について理解する。(DPの「知識・理解」に対応) 文化研究で用いられる手法を知ると同時に、東アジアにおける社会と文化の関係を知ることで、文化の継承の課題について考える。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1 文化研究の様々な姿勢について知り応用できる。 2 東アジアの文化の背景にある儒教・道教などの宗教と、文化とのつながりについて認識することができる。 3 中国・日本・台湾間の文化の影響関係について認識することができる。 4 文化政策が文化の発展や継承にどう影響するか、自分の身近な問題として捉えられる。			
成績評価の方法と基準 数回のレポートの得点(40%) + 試験の成績(60%) に出席率を乗した数値により判定する。欠席の回に対応する課題提出は認めない。 忌引・疾病による出席停止・交通機関の運休などにより欠席した場合、レポート提出上の配慮はする。ただし、これらの場合も含め欠席が5回を超えた学生は成績評価対象としない。(これ以内でも欠席が多かったりレポート不提出が多い場合は、自動的に合格可能性は低下する)			
授業計画並びに授業及び学習の方法 講義形式で行い、教科書は使用しない。 この講義は以下の内容で行うが、受講生の順序などについては変更される場合がある。 第1～2回 文化研究の流れ(基本的な考え方を知る) ・文化研究の発展 ・文化研究の手法 ・従来の学問分野と学際的考え方 ・西洋の文化理論の変遷と東洋での受容・応用 第3～4回 トピック1: 日本文化の中に中国文化はどのように反映されたか 第5～7回 トピック2: 儒教と国家組織 統治の道具としての儒教 科学 第8～9回 トピック3: 道教 道教の神々 道教と日本文化 道教と祭祀 第10～13回 トピック4: 芸能の伝承と社会 京劇・越劇・歌仔戲・布袋劇 歌舞伎・講談・落語 第15・16回 トピック5: 他者の目でアジア文化を見る 西洋文化の流入とその影響 ヨーロッパに於ける中国・日本 なお、途中2, 3回フィルムを使用することがある。(時間と回数は受講者の理解度による)			

教科書・参考書等

教科書：特に使用しない

参考書：tba

オフィスアワー 金曜5時間目、研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- 1 座席指定とする予定なので、最初の授業に必ず出席すること
- 2 30分以内の遅刻者は指定するエリアの座席に着席すること（他の座席にいた場合出席票や資料は交付しない）
- 3 文字化が難しいもの以外は資料配布はしないので、きちんとノートを取る事。カメラ（機能）での板書および映像資料の撮影は認めない。
- 4 講義中の出入りは慎むこと。・スマートフォンなどは電源を切ったうえ鞆の中等にしまうこと。机上 机の下などを問わず、使用している場合出席票を没収する。（留学生が日本語の理解のため電子辞書などを使用する場合はこの限りでない）
- 5 映像資料使用中の居眠りなどの場合も3と同じ処置を取る。
- 6 「高学年教養科目」として履修する場合、2年次以上の学生のみ受講できる。

ナンバリングコード B2ECN-bceE-3N-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332070) アジア経済論 Asian Economy	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2ECN	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 3N
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 李 素軒	関連授業科目	アジア社会論、アジア文化論	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 アジア地域の経済発展過程を歴史的に鳥瞰し、その特性を理解するための理論や概念を紹介・解説する。また、アジア金融危機の経緯とその後の地域経済・金融協力の動きを検討し、今後の方向性について議論する。			
授業の目的 (1) アジア経済論の基礎知識を習得する。(DPコード: b, e) (2) 多様な理論的観点に対して、それらを正しく理解し、批判的に考える力を身に付ける。(DPコード: c)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) アジア諸国の経済発展過程に対して理論的概念を的確に使いながら説明することができる。 (2) 1970年代以降のアジア諸国な急速な経済成長および1990年代末のアジア金融危機をめぐる多様な理論的観点を正確に理解し、それを批判的に検討した上、自分の考えを述べることができる。			
成績評価の方法と基準 平常点(質問カード等) 30% + 授業発表又は期末レポート70%			
授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回: シラバスを用いた授業ガイダンス-アジア経済へのアプローチ 第2回: グローバル・ヒストリーから見たアジア-中華文明と「大分岐」 第3回: 東アジアの経済成長1-「東アジアの奇跡」とキャッチアップ工業化(1) 第4回: 東アジアの経済成長1-「東アジアの奇跡」とキャッチアップ工業化(2) 第5回: 東アジアの経済成長2-アジア金融危機と「奇跡」の再考(1) 第6回: 東アジアの経済成長2-アジア金融危機と「奇跡」の再考(2) 第7回: 東南アジア諸国の経済成長-「緑の革命」と脱農業化(1) 第8回: 東南アジア諸国の経済成長-「緑の革命」と脱農業化(2) 第9回: 中国の社会主義市場経済(1) 第10回: 中国の社会主義市場経済(2) 第11回: アジア諸国の貧困と格差問題(1) 第12回: アジア諸国の貧困と格差問題(2) 第13回: アジア地域の経済・金融協力(1) 第14回: アジア地域の経済・金融協力(2) 第15回: 復習、学生発表又は討論			
教科書・参考書等 教科書 『現代アジア経済論 -- 「アジアの世紀」を学ぶ』、遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太編、有斐閣ブックス、2018年、定価 2,916円 参考書 『現代アジア経済論』、原洋之介著、岩波書店、2001年、2200円(税抜) 『キャッチアップ工業化論-アジア経済の軌跡と展望-』、末廣昭著、名古屋大学出版会、2000年、3500円(税抜) 『新興アジア経済論-キャッチアップを超えて』、末廣昭著、岩波書店、2014年、2400円(税抜)			
オフィスアワー			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回教科書及び参考文献の関連する部分を読んでおくことを勧めます。授業が終わる10-15分前に質問カードを配布し質問・コメント等を書いてもらいます。教員へのフィードバックなどに積極的に活用してください。			

ナンバリングコード B3SCL-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332080) 現代韓国・朝鮮研究 Modern Korean Studies	科目区分	時間割 前期金3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 宮島 美花	関連授業科目		
	履修推奨科目	アジア社会論	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習			
授業の概要 近年、韓国の映画やドラマが日本でも広く歓迎され、韓国に関心を持つ人も増えた。各シーンやセリフの理解には、その背景にある歴史・政治・経済・社会・文化についての広範な知識が必要であるが、これらを高校までに学ぶ機会を持った人は多くない。この授業では、朝鮮半島、韓国、コリアンについて、歴史・政治・経済・社会・文化などの諸分野からの多様なアプローチを試み、人々の日常とのつながりを意識しながら、全般的な講義を行う。			
授業の目的 朝鮮半島、韓国、コリアンの歴史と現状、今日的諸問題、人々の生活について理解し、関心を育む。これらの事柄に関心を寄せる者が、後に各自の専門分野で専門的な研究に入っていけるよう、基礎的な学力を育て、関心を広げる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 朝鮮半島、韓国、コリアンの歴史と現状、今日的諸問題、人々の生活について理解する。 2. 後に各自の専門分野で専門的な研究に入っていけるような基礎的な学力を持つ。			
成績評価の方法と基準 授業中に行う中間試験、および、期末試験（持ち込みは全て不可）を総合し決定する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 毎回の授業は、教員の講義（必ずノートをとること）を聴くばかりの受動的な授業にならないよう、映像資料を含む様々な資料を活用しながら行う。従って能動的に授業に参加することが求められる。			
第1回 オリエンテーション、概況（人口、地理ほか） 第2回～第3回 朝鮮戦争と南北分断 第4回～第7回 朝鮮戦争後の韓国一開独独裁と経済発展、民主化の過程 第8回～第10回 朝鮮戦争後の北朝鮮の政治経済 第12回～第13回 現代韓国社会と儒教 第14回～第15回 今に息づく伝統文化：パンソリ、両班（支配者層）と民衆の男女観ほか 学生の関心、時事的な問題・話題に応じるなどの理由により、変更の可能性はある。			
この授業は、17E以上の学生が履修できる授業である（18E以下の学生は履修できない）。			
教科書・参考書等 購入すべき指定の教科書はなく、参考資料については授業中に適宜言及する。			
オフィスアワー 授業時間後に質問等を受け付けるほか、オフィスアワーにも受け付ける。オフィスアワーは担当教員の今年度の時間割が決定後に設定する。ただし会議等が入り、研究室を不在にする場合もあるので、事前に申し出て約束することが望ましい。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回出席してノートを取り、やむをえない事情で欠席した場合は必ず他の履修生にノートを借りて、その分の自習をしておくこと。この授業は、17E以上の学生が履修できる授業である（18E以下の学生は履修できない）。			

ナンバリングコード B3SCL-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 333204) アメリカ社会論 American Society	科目区分	時間割 前期月3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 川端 美都子	関連授業科目	外国語演習、グローバル社会概論	
	履修推奨科目	グローバル社会概論 (文化社会論)	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 「アメリカ」とは何を意味するのか。「アメリカ」という語自体、地理、経済、文化、教育、政治などの点において、非常に複雑で複層的な意味を持つ。本講座では、地理、経済、階級、人種、エスニシティ、ジェンダー、宗教などのテーマ別に、「アメリカ」というものがどのように構築されてきたのかについて学ぶ。これにより、現代のアメリカ社会における様々な社会問題や文化現象を、より深く理解できるようになることを目指す。			
授業の目的 本講座の目的は、「アメリカ」を事例として、文化や社会の多様性と複雑さを学ぶことである。多様なテーマから、現代アメリカ社会の諸側面を概観していくことで、単に他国について学ぶのではなく、自国の文化・社会現象を相対化して考えられるような視点や思考力の獲得を目指す。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) アメリカ社会の社会・文化現象に、文化・社会理論的概念を適切に当てはめて、考えることができる (レポート) 2) アメリカ社会や文化について、バランスの取れた見方をすることができる 3) 現在のアメリカ社会が歴史的にどのように構築されてきたのか、自分の言葉で説明することができる (ミニレポート、レポート、期末試験)			
成績評価の方法と基準 成績は、以下を基に総合的に評価する。 授業貢献 (発言等)・予習・小テスト・レスポンスペーパー : 30% レポート : 35% 期末試験 : 35% ※毎週の教科書のリーディング課題を基に授業を進めるため、各自予習・復習をしっかりとしておく必要がある。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業及び学習の方法】 ・講義が中心ではあるが、意見交換や質問など積極的な参加・学習態度が評価の対象となる。 ・毎回、授業や教科書で学習した範囲や、授業内で使用した視聴覚資料に基づいた出されたテーマについてミニレポートにまとめ、提出してもらう。 ・講義内容をより理解するために、教科書の指定範囲の予習をしておく必要がある。			
【授業予定 (変更の可能性有)】 第1週目 : 導入「アメリカ人とは誰のこと？」 第2週目 : アメリカの地理的多様性と環境の変化 第3週目 : 経済成長と階級形成 (1) 第4週目 : 経済成長と階級形成 (2) 第5週目 : 人種とエスニシティ (1) : 先住民族 第6週目 : 人種とエスニシティ (2) : ヨーロッパ移民 第7週目 : 人種とエスニシティ (3) : アフリカ系アメリカ人 第8週目 : 人種とエスニシティ (4) : ヒスパニック系・ラティーン 第9週目 : 人種とエスニシティ (5) : アジア系移民 第10週目 : ジェンダー (1) 第11週目 : ジェンダー (2) 第12週目 : 宗教と国民意識 第13週目 : ポピュラー・カルチャー (1) : 演劇、ミュージカル、映画 第14週目 : ポピュラー・カルチャー (2) : 対抗文化の登場 第15週目 : まとめ			

教科書・参考書等

有賀夏紀・油井大三郎（編集）. 2002. 『アメリカの歴史—テーマで読む多文化社会の夢と現実/有賀』 有斐閣.
¥2,200+税)

オフィスアワー 経済学部3号館3階
川端研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・アメリカについての予備知識は必要ありませんが、興味・関心のある学生を歓迎する
- ・積極的な授業態度は加点する（発言内容の正誤は問わない）
- ・注意をしても、大幅な遅刻、携帯でのゲームなど他の学生の邪魔になる行為が繰り返される場合には、退出を求めることもある
- ・20分以上の遅刻は欠席扱いとする（20分未満でも繰り返される場合はペナルティをつける）
- ・剽窃が行われたレポートは0点とする

ナンバリングコード B3GE0-bceE-30-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 331060) 観光政策論 Tourism Policy	科目区分	時間割 後期金0	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3GE0	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 山田 香織	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 日本における外国人観光客の増加、ゲストハウスや民泊という宿泊形態の登場、観光を活かした地域振興。観光に関連するこうした動きは、みなさんも耳や目にしたり、実感している／したことがあるのではないのでしょうか。では、こうした事象はなぜ生じているのでしょうか？偶然の産物なのでしょうか？もちろん偶発的に生じた観光現象も各地に存在しますが、一方で、観光は、国益や地域振興、平和を意図した政策の下で創出・推進されてきました。つまり観光現象は、意図や目的をもって創造されていることが珍しくありません。それゆえ、観光に関する政策はこの現象を捉えようとする際に見過ごすことができないのです。本講義では観光政策に着目し、日本の観光現象を読み解きます。論点は3つ。①日本の観光政策の歴史、②今世紀における観光振興に関わる政策、③現場からみた政策の効果と課題です。比較の眼を養うべく、④他国の観光政策も概観する予定です。			
授業の目的 ・観光振興にかかわる政策を実際の観光現象と結びつけながら理解する (DPの知識・理解に対応)。 ・観光政策の効果と課題を観光現場の視点から理解する (DPの地域理解に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・観光にかかわる政策の特徴を説明することができる。 ・観光に関する具体的事例を観光政策の観点から分析・考察することができる。			
成績評価の方法と基準 ・授業への参加態度 (ディスカッション等への関与、リアクションペーパー・moodle・ワークシートの提出とその記述内容、事前学習への取り組み姿勢等) 40点 ・学期中に課す小レポートと期末レポート 60点			
授業計画並びに授業及び学習の方法 ・講義形式で授業を進めますが、受講生には、授業内で提示をした情報を基に、各自、思考することを繰り返す求めていく予定です。 ・授業内でグループワーク (情報収集、整理、ディスカッション等) を課すことがある。 ・事前・事後学修として講義内容に関連する資料等の講読、事例についての情報収集を課すことがある。			
【授業計画】 初回と最終回以外の全13回を4つのパートに分け、順次、授業を進めていきます (授業の進行の関係上、授業内容が前後することがあります)。			
(1) ガイダンス：授業のねらいと進め方、日本の観光史			
I. 日本の観光政策の歴史 (2) 明治から20世紀世紀末ごろまでの観光政策 (3) 21世紀観光立国実現に向けた観光政策			
II. 今世紀における観光振興に関わる政策 (4) 場所・空間の保全・保護政策と観光 (5) 文化政策と観光 (6) 地方創生と観光 (7) インバウンド観光と政策 (8) 観光振興のための組織づくりと政策			
III. 現場からみた観光をめぐる政策の効果と課題 (9) 事例①—世界遺産 (10) 事例②—地方国際芸術祭 (11) 事例③—京都 (12) 事例④—別府			

IV. 各国の観光政策

(13) ヨーロッパ (スペイン、フランス、ドイツ)

(14) アジア (シンガポール、タイ)

(15) まとめ：観光政策の展望と課題

教科書・参考書等

指定しない。適宜授業内でプリント等を配布する。

以下以外に、各講義回の内容に関連する参考文献は授業内で紹介する。

- ・観光庁HP (<http://www.mlit.go.jp/kankocho/>)
- ・寺前秀一 (編著) 『観光政策論』 原書房、2009年。
- ・盛山正仁 『観光政策と観光立国推進基本法 第3版』 ぎょうせい、2012年。

オフィスアワー 授業終了後に応じます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業中の私語、スマホ・ケータイの操作は厳禁とします。該当する受講生には即時退出していただきます。

ナンバリングコード B3GE0-bceE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 333170) 観光文化論 Tourism and Culture	科目区分	時間割 後期月3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3GE0	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 最上 英明	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 観光と文化は密接な関係にあり、文化的な動機に基づいた観光活動としての「文化観光」という用語も定着している。芸術鑑賞、文化イベント、遺跡訪問のための旅行もその一部である。美術館、オペラハウス、コンサートホールのような文化施設、また近年脚光を浴びている世界遺産などの観光資源への理解を深めながら、観光と文化について考察する。			
授業の目的 芸術文化、文化施設、世界遺産などへの理解を通して、観光と文化に関する基礎知識を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
観光と文化の関係の一端について知ることができる。 オペラやオーケストラの歴史を知ることができる。 海外の主要なオペラハウス、コンサートホール、美術館の歴史や背景を知ることができる。 日本人に人気のある近現代の画家や絵画を知ることができる。			
成績評価の方法と基準 期末試験の成績が評価の中心となる(90%)。出席カードを兼ねたミニレポートもたまに書いてもらい、評価の対象に加えるが、ミニレポートの不正行為には厳しく対処する。 自身の鑑賞体験を記した任意のレポートも受理する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 口述筆記が中心。プリントを随時配布し、映像も鑑賞する。			
(1)～(11) 音楽と観光 ・オペラやオーケストラの歴史 ・主要な歌劇場やコンサートホール ・主要なオペラ、主要な文化都市、主要な音楽祭 ・ルートヴィヒ2世が建造させた城とその背景など (12)～(15) 美術と観光 ・海外の近代美術や美術館を中心に			
教科書・参考書等 教科書は使用しない。参考書は随時紹介する。			
オフィスアワー 水曜日1時限目、またはメール等での相談。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 他の受講者の迷惑になるので、私語は厳禁。若いうちに、いろいろな芸術や文化にも積極的に接して欲しい。			

ナンバリングコード B3SCL-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332205) 比較近代化論 Comparative Studies of Modernization	科目区分	時間割 後期末3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 金澤 忠信	関連授業科目	グローバル社会概論	
	履修推奨科目	ヨーロッパ文化論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 まず「近代化」とは何かを問い、それが我々の生活や社会にどのような影響を及ぼしているのかについて考察する。近代化の過程およびその問題点について、日本とヨーロッパ諸国を比較し、相互の影響関係を分析する。特に、19世紀において国民国家という巨大な共同体が要請され、創設される歴史的背景および歴史的条件について、帝国主義、資本主義、科学技術、教育制度、学問・芸術、マスメディアなど、様々な角度から究明していく。			
授業の目的 日本の近代化は「欧米化」とほぼ同義であるため、日本の近代化について議論するためには、まず19世紀から20世紀にかけてのヨーロッパ各国あるいはアメリカの政治・経済・社会・文化についての幅広い知識が必要となる。そのうえで、欧米の文物のうち、日本がどれを、どのような条件のもとで、どのように受容したか、そしてそれがどのような効果をもたらしたかについて明らかにしなければならない。また、日本が世界にたいしてどのような影響を与え、世界からどのように見られていたのかについても考慮に入れる。こうした様々な視点からの複合的な考察を通じて、歴史的現象としての近代化が、現代の人間の考え方や生き方に及ぼしている影響を解明する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
日本以外の国・地域における事象・事件であっても、積極的に問題意識を持ち、自分に直接関わる問題として考えることができる。現在の自分の生活が、近代ヨーロッパの思想・文化にいかに関与を受けているかについて、深く認識・自覚することができる。現代社会のあり方を、その創設や発展といった歴史的経緯をたどる作業を通じて考察することができる。			
成績評価の方法と基準 平常点(出席、毎回のミニレポート) 30%、中間レポート30%、学期末試験40%により、総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 (1) イントロダクション(本講義の概要、授業の進め方、単位の取り方など) (2) 近代化とは何か (3) 19世紀ヨーロッパ情勢(1) (4) 19世紀ヨーロッパ情勢(2) (5) 帝国主義の時代(1) (6) 帝国主義の時代(2) (7) 日本の近代化(1) (8) 日本の近代化(2) (9) 受容と翻訳の問題(1) (10) 受容と翻訳の問題(2) (11) 近代化がもたらしたもの(1) (12) 近代化がもたらしたもの(2) (13) 近代と現代(1) (14) 近代と現代(2) (15) まとめ 【学習の方法】 授業は必ずノートを取りながら聞く。配布されるプリント等の資料をしっかりと読み、自分の関心・疑問を明確化する。毎回ミニレポートに意見・感想・質問などを書く。課題が与えられたときは、必ず調べて事前に知識・情報を得ておく。授業時に紹介される参考文献、映画作品などはできるだけ事前に観たり聴いたりしておく。			
教科書・参考書等 高津春繁、『比較言語学入門』、岩波文庫、1992年、780円＋税。 福澤諭吉、『文明論之概略』、岩波書店、1995年、940円＋税。 柳父章『翻訳語成立事情』、岩波書店、1982年、700円＋税。 ※いずれも購入の必要はないが、講義のなかで必ず言及するので、なるべく事前に読んでおくこと。			
オフィスアワー 月曜4時限目。幸町南キャンパス3号館2階、金澤研究室。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 歴史的研究にもとづいた授業で、難しそうに見えるかもしれませんが、専門用語などはできるだけ平易な解説を心がけます。雑学的知識よりも問題意識を持つことを学んでください。			

ナンバリングコード B3SCL-abxE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 332465) 外国語演習Ⅱ (韓国語) Foreign Languages II	科目区分	時間割 前期木2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 宮島 美花	関連授業科目	初修外国語「韓国語」	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 全学共通教養科目の初修外国語「韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で培った韓国語の基礎を確認しながら、中級レベルの韓国語力を身につける。			
授業の目的 全学共通教養科目の初修外国語「韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」に引き続き、韓国語の基礎を確実に身に付けるために、既習内容の確認をしながら、さらに上の中級レベルの韓国語の力を獲得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
語彙・文法において中級レベル、具体的には、ハングル能力検定3～4級レベルの格し、更にはその韓国語力を3級レベルへと伸ばす素地を養う。			
成績評価の方法と基準 毎回の単語テスト(ハングル能力検定試験4・5級の全単語について、毎週、冒頭に単語テストを行う)、中間テスト、期末テスト(ハン検3・4級レベル)から判断する。すべてのテストで持ち込みは不可である。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回～第6回 ハングル能力検定試験5級問題 第7回～第13回 ハングル能力検定試験4級問題 第14回～第15回 ハングル能力検定試験3級問題 ハングル能力検定試験5級、4級レベルの全単語について、毎週、冒頭に単語テストを行う。毎回の単語テストの準備は学生にとって面倒であるようだが、単語力なくして資格試験に合格することはできない。このことを十分に理解している学生だけが履修すること。例年の様子では、毎週の単語テストを、頻繁に白紙で提出する学生がおり(単語テストの準備をしない)、この場合は減点対象とする。 毎回の授業は、冒頭に単語テストを行い、そのあと、ハングル能力検定試験の過去問題などを教材とし、それに沿って学び進める。 例年の様子では、初回授業でハン検5級(一番下の級)練習問題を解いたときに、「基礎文法を忘れてしまっており、受講を辞退したい」という学生がいる。したがって、履修する前に、1年次前期・後期の韓国語教科書をもういちど見直してから履修すること。 注意 ※この授業は、17E以上の学生(新3年生以上)のみ履修することができる。 ※※この授業は、初修外国語の韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの単位を取得済み、新3年生以上の学生のみ履修することができる。韓国語Ⅰ・Ⅱの単位のみ取得済みである場合は、この科目と同じく地域社会システム学科自学科自由科目である「外国語会話(韓国語)」(担当教員:河先生)が、同じく今年度前期に開講されるので、そちらを受講すること。			
教科書・参考書等 初回授業で指示する。			
オフィスアワー 毎回の授業後に質問・相談を受け付けるほか、研究室で受け付ける。ただし会議等で不在にする場合もあるので、事前に申し込み約束をすること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 新3年生以上で、初修外国語の韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの単位を取得済みであること。			

ナンバリングコード B3SCL-abxE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 332497) (特) ドイツ語会話 I Special Lecture	科目区分	時間割 後期月1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 フリアン・ノイマン	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 この授業は日常生活に必要な基礎的ドイツ語会話ができるようになることを目的にする。文法を中心に速く進むことより、学んだ文法を自然に使えるようになることを優先する。言語だけではなく、ドイツ事情（政治・文化・歴史）についても話し合う。			
授業の目的 日常生活に必要な基礎的なドイツ語会話ができるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
ドイツ語会話の能力を身につけることができる。 ドイツ語の文章が読めるようになる。			
成績評価の方法と基準 評価は試験だけでは行わない。授業中に積極的に発表するなどの授業参加態度を重視する。50%は授業中の積極性、残りは口頭及び筆記試験により評価される。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回 オリエンテーション 第2回～第15回 会話練習・短いテキストの読解・発表 第16回 期末試験			
教科書・参考書等 基本的に印刷資料を用意する。			
オフィスアワー 初回の授業で説明する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 主に会話の授業なので、積極的な参加態度が求められる。			

ナンバリングコード B3SCL-abxE-30-Eb2 授業科目名 (時間割コード: 332471) 外国語会話 I (中国語) Foreign Language Conversation I	科目区分	時間割 後期木4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eb	単位数 2	
担当教員名 毛 勇	関連授業科目	「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語Ⅲ」、 「中国語Ⅳa」、「中国語Ⅳb」、「中国語会話Ⅲ」	
	履修推奨科目	「社会と文化」、「東アジア論」、「中国文化論」	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 この授業では、LL形式により、場面を想定した自然な会話文を学び、よく使われた会話を繰り返し練習することによって中国語をより確実に自分のものにしていく。			
授業の目的 ヒヤリング・会話を通じて、文章を丸ごと覚え、真似て表現していただくことを重点訓練し、実用中国語能力を養成することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
聴 (Listening) : あらかじめ与えられた200字程度の文章を普通の速度で聴き取ることが出来る ; 説 (Speaking) : ある状況 (日常的な場面) にあわせて基本的な表現が出来る ; 読 (Reading) : 易しい文章を辞書・注を頼りに一定の正確さで読める ; 書 (Writing) : 既習の文法事項を利用した文が書ける ; 会話 (Conversation) : 簡単な日常会話が出来ることが目標とする。			
成績評価の方法と基準 授業参加姿勢 (10%) レポート (10%) 期末試験 (80%) で総合評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 新生入学 2. 泼水节 3. 苏州园林 4. 综合练习 5. 喝茶 6. 兵马俑 7. 练习跳舞 8. 综合练习 9. 电影少林寺 10. 参观天坛 11. 看京剧 12. 综合练习 13. 参观中国馆 14. 石林观光 15. 漫步艺术区 <p>LL方式で、「聞く・話す・読む・書く」を総合的に訓練するが、とくに「聞く・話す」に重きを置くため、予習の時点でよくCDを聴くように勧める。</p>			
教科書・参考書等 教科書：遠藤光暁ほか「ビジュアル中国」2014朝日出版社。 定価：2,300円+税 参考書：随時指示する。			
オフィスアワー 非常勤なので、オフィスがないが授業中の双方向コミュニケーションを重視し、授業終了後も質問、討論可能である。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 教養教育 (全学共通科目) 中国語 4 単位以上既取得者を対象とする。			

ナンバリングコード B3SCL-abxE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 332483) 外国語会話Ⅱ (ドイツ語) Foreign Language Conversation Ⅱ	科目区分	時間割 前期水3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 フリアン・ノイマン	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 この授業はドイツ語での日常会話ができるようになることを目標とするが、初級クラスではないので、ある程度の基礎会話力と文法の知識が受講の前提条件である。重点は発話能力と聴解力に置かれる。まず模範となる対話練習を行い、ついで自由応答の対話練習を行う。 聴解、会話練習を繰り返す。ペアとグループ練習によって会話の実践力を養う。 言語だけではなく、ドイツの歴史、地理、文化、政治、特徴等についても話し合う。 受講者によってレベルを決める。			
授業の目的 ドイツ語での日常会話力の養成。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
中級レベルのドイツ語会話ができる。			
成績評価の方法と基準 授業中に積極的に発表するなどの授業参加態度を重視する。80%は授業中の積極性、残りの20%は宿題で評価される。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 会話の練習を積み重ねる。 (1)～(15) 会話演習 (16) 期末試験			
教科書・参考書等 プリント配布			
オフィスアワー 随時、相談による			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 会話の授業なので、積極的な参加態度が求められる。			

ナンバリングコード B3SCL-abxE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 332482) 外国語会話Ⅱ (韓国語) Foreign Language Conversation Ⅱ	科目区分	時間割 前期木1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 河 智弘	関連授業科目	初修外国語「韓国語」	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 レベルとしては、(1) 初修外国語「韓国語Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得した学生を最低サインとしつつ、学生が引き続き韓国語能力を維持し、特に会話能力を伸ばすことができるような内容までを扱う。 会話は、読み書きできるだけではできません。また、例文を完全に覚えたところで応用ができなければ、会話することはできません。つまり、会話は、基礎文法を学んだ人が、単語の暗記と使用の訓練を繰り返すことでできるようになるものです。文法の復習をしない人、暗記の苦勞を惜しむ人は、会話をできるようになりません。この授業では、履修生の語彙を増やし、覚えた単語や文型を引き出し、ネイティブに通じる発音で発話できるように練習します。			
授業の目的 簡単な会話ができるように多くの語彙・表現を学び、またそれらの発音について練習する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
以下の各項目について、韓国語能力検定2～3級レベル、ないしハングル能力検定試験4～3級レベルの内容を身につける。 1. 簡単な会話(日常の簡単な挨拶や自己紹介など)ができる。 2. 語彙を増やす。 3. 韓国旅行時などに必要な基礎知識を学ぶ。(場所や時間の表現・マナー等) 4. 韓国語表現をもとに韓国の文化について理解を深める。			
成績評価の方法と基準 出席状況、宿題を含む授業態度、試験の結果などを総合的に勘案して評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 会話を中心とした授業であるので、受講生の積極的な参加を求める。 第1回 イン트로ダクション、授業の概要説明 第2回～4回 会話の基礎 第5回 小テスト 第6回～9回 日常会話(基礎) 第10回 小テスト 第11回～15回 日常会話(応用) 第16回 期末テスト ※この授業は17E以上の学生(新3年生以上)のみ履修可能である。 ※初修外国語「韓国語Ⅰ・Ⅱ」を取得済みの学生のみ履修可能である。それ以外の学生が履修を希望する場合は、初修外国語「韓国語Ⅰ・Ⅱ」に相当する韓国語力があることを客観的に示す資格等を提出すること。 ※昨年度の「外国語会話Ⅰ(韓国語)」を履修していなくても履修可能である(昨年度の「外国語会話Ⅰ(韓国語)」を履修した者も履修可能である)。			
教科書・参考書等 初回授業で指示する。			
オフィスアワー 授業後の休み時間に対応する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ この授業は17E以上の学生(新3年生以上)のみ履修可能である。 初修外国語「韓国語Ⅰ・Ⅱ」を取得済みであること。 担当教員(河(ハ))は韓国語ネイティブであるので、積極的に「韓国語で」関わってほしい。			

ナンバリングコード B3SCL-abxE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 332486) 外国語会話Ⅲ (ドイツ語) Foreign Language Conversation Ⅲ	科目区分	時間割 後期水3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 フリアン・ノイマン	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 この授業は、前期の「ドイツ語会話Ⅱ」の続きである。 ドイツ語での日常会話ができるようになることを目標とするが、初級クラスではないので、ある程度の基礎会話力と文法の知識が受講の前提条件である。重点は発話能力と聴解力に置かれる。まず模範となる対話練習を行い、ついで自由応答の対話練習を行う。 聴解、会話練習を繰り返す。ペアとグループ練習によって会話の実践力を養う。 言語だけではなく、ドイツの歴史、地理、文化、政治、特徴等についても話し合う。			
授業の目的 ドイツ語での日常会話力の養成。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
中級のドイツ語会話ができる。			
成績評価の方法と基準 授業中に積極的に発表するなどの授業参加態度を重視する。80%は授業中の積極性、残りの20%は宿題で評価される。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 会話の練習を積み重ねる。 (1)～(15) 会話演習 (16) 期末試験			
教科書・参考書等 プリント配布			
オフィスアワー 随時、相談による			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 会話の授業なので、積極的な参加態度が求められる。			

ナンバリングコード B30TH-abdE-3N-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332510) ビジネス英語 I English for Business I	科目区分	時間割 前期火4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B30TH	DP・提供部局 abdE	対象学生・特定プログラムとの対応 3N
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 WILLIAMS R T	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 15 classes. 90 minutes/week. Occasional homework, preparation and review time outside of class will be necessary.			
授業の概要 The general aim of the class will be to learn English that will be required in a business environment. The approach will be mainly conversational and use an active learning model. Students will be required to do a pair project for each unit that will be graded.			
授業の目的 Students will draw on the English that they have already studied, and expand on it to be able to use that English in business. Students will also learn how to write brief reports and develop techniques that they can apply when they need to state their opinions.			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
Students will learn the following outcomes from the course: 1. Be able to introduce themselves, their company, and their products in English. 2. Be able to state their opinions in a business setting. 3. Have a basic understanding of vocabulary and expressions used in a business environment. 4. Have a basic understanding of cultural norms as they relate to the language in an English-speaking office environment.			
成績評価の方法と基準 Since this class will follow an active learning model, 25% of the grade will come from attendance and participation. 25% will be from written assignments. 50% will be from a comprehensive final exam.			
授業計画並びに授業及び学習の方法 1. Orientation and Instructor Introduction. 2. Introductions of students 3. Textbook Unit 1.Meeting people 4. Textbook Unit 1.Developing conversations 5. Pair project for unit 1 6. Textbook Unit 2.Office telephone etiquette 7. Textbook Unit 2.taking and leaving messages 8. Pair project for unit 2 9. Textbook Unit 3.Scheduling 10. Textbook Unit 3.Making appointments 11. Pair project for unit 3 12. Textbook Unit 4.Presenting figures 13. Textbook Unit 4.Numbers and graphs 14. Pair project for unit 4 15. Review for final Exam			
教科書・参考書等 Business Venture 2 Pre-Intermediate Student Book. Roger Barnard & Jeff Cady. Oxford University Press. ISBN 978-0-19-457818-9			
オフィスアワー Office hours are available by appointment with the Instructor.			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ Bring to every class: 1. Your textbook; 2. Paper and pencil/pen; 3. An electronic dictionary or a Japanese to English book dictionary. 受講希望者多数 (50名以上) の場合, 受講調整を行う場合があります。			

ナンバリングコード B30TH-abdE-3N-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332520) ビジネス英語Ⅱ English for Business II	科目区分	時間割 後期火4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B30TH	DP・提供部局 abdE	対象学生・特定プログラムとの対応 3N
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 WILLIAMS R T	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 15 classes. 90 minutes/week. Occasional homework, preparation and review time outside of class will be necessary.			
授業の概要 The general aim of the class will be to learn English that will be required in a business environment. The approach will be mainly conversational and use an active learning model. Students will be required to do a pair project for each unit that will be graded.			
授業の目的 This course assumes that students have taken Business English I. Students will draw on the English that they have already studied, and expand on it to be able to use that English in business. Students will also learn how to write brief reports and develop techniques that they can apply when they need to state their opinions.			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
Students will learn the following outcomes from the course: 1. Be able to handle simple to more complex business conversations. 2. Be able to state their opinions in a business setting. 3. Be able to have confidence and handle themselves properly in English in any given business situation. 4. Have a more complete understanding of cultural norms as they relate to the language in an English-speaking office environment, beyond Business English I.			
成績評価の方法と基準 Since this class will follow an active learning model, 25% of the grade will come from attendance and participation. 25% will be from written and verbal assignments. 50% will be from a comprehensive final exam.			
授業計画並びに授業及び学習の方法 1. Orientation and Instructor introduction. 2. Student business introductions 3. Textbook Unit 5. Product features 4. Textbook Unit 5. Talking about a company and its products 5. Pair project for unit 5 6. Textbook Unit 6. Business decisions. 7. Textbook Unit 6. Explaining rationales. 8. Pair project for unit 6 9. Textbook Unit 7. Dealing with complaints 10. Textbook Unit 7. Solutions and problems solving in the office 11. Pair project for unit 7 12. Textbook Unit 8. Business travel arrangements 13. Textbook Unit 8. Business trips 14. Pair project for unit 8 15. Review for final Exam			
教科書・参考書等 Business Venture 2 Pre-Intermediate Student Book. Roger Barnard & Jeff Cady. Oxford University Press. ISBN 978-0-19-457818-9			
オフィスアワー Office hours are available by appointment with the Instructor.			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ Bring to every class: 1. Your textbook; 2. Paper and pencil/pen; 3. An electronic dictionary or a Japanese to English book dictionary. 受講希望者多数 (50名以上) の場合、履修制限を行う予定です。			

ナンバリングコード B3GE0-becE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332170) 地域研究論 Research Strategies in Human Geography	科目区分	時間割 後期末4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3GE0	DP・提供部局 becE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 高橋 昂輝	関連授業科目	観光地理学	
	履修推奨科目	観光地理学	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 本授業では、地域に関する研究を遂行するにあたり、必要となる様々な概念、方法論などについて、主に人文地理学の枠組みに基づいて講義する。授業計画の前半部において、学史、地域概念、立地論などの基礎的事項を解説する。また、後半部では、問題意識に根差した複数のテーマを設定し、事例とともに分析方法を紹介する。			
授業の目的 本授業の目的は、地域を対象とした研究をおこなうにあたり、必要不可欠な基礎知識を修得し、そのうえで、対象の地域やテーマに対応した適切な分析方法を理解することである (DP: 地域理解, 知識・理解に対応)。また、授業の最終的なゴールは、地域を対象とした研究の計画を受講者自らが設計できるようになることである (DP: 問題解決・課題探求能力に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地域に関する学問の歴史や系譜を理解し、説明できる。 2. 地域に関する諸概念を理解し、説明できる。 3. 地域に関する様々な分析方法を理解し、説明できる。 4. 地域に関する研究計画を適切に設計できる。			
成績評価の方法と基準 授業内課題: 30% 中間試験: 30% 期末レポート: 40% ※但し、全授業内課題のうち、2/3以上の提出を単位取得の要件とする。授業内課題は、不定期に複数回実施する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 第1回 導入: 地理学と地域研究 第2回 地域研究の手順 第3回 地図の種類と読み方 第4回 地域概念 第5回 農業立地論 第6回 工業立地論 第7回 都市の空間構造 第8回 中間試験 第9回 時間・行動と地域 第10回 子ども・若者と地域 第11回 政治と地域 第12回 健康と地域 第13回 不平等と地域 第14回 災害と地域 第15回 総括 【授業内の学習方法】 ・授業には必ず地図帳 (中学・高校で使用したもので可) を持参し、説明にあがる国・地域・都市、河川・山脈などの位置をその都度確認する。 ・板書やスライドの内容のみならず、口頭で説明される内容にも注意を払い、ノートを取る。 【自学自習】 ・授業で紹介された文献を読む。 ・新聞・テレビ・インターネット等で、国内外のニュースを読むまたは見る。			
教科書・参考書等 教科書: 特に指定しない。適宜プリントを配布するほか、地図帳を使用する。 参考書: ・野間春雄ほか編著 (2017) 『ジオ・パルNEO ―地理学・地域調査便利帖― (第2版)』海青社. 2,700円 (税込). ・村山祐司編著 (2003) 『シリーズ人文地理学 2: 地域研究』朝倉書店. 3,800円+税.			

オフィスアワー 木曜日 5時限目 (教員研究室)

※そのほか、事前に連絡をもらえれば、出来る限り対応します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・私語および教室への無用な出入りを厳禁とする。
- ・教室内では、スマートフォンなどのカメラを使った撮影を一切禁じる。

ナンバリングコード B3GE0-becE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 331040) 観光地理学 Geography of Tourism	科目区分	時間割 後期火1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3GE0	DP・提供部局 becE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 高橋 昂輝	関連授業科目	地域研究論	
	履修推奨科目	地域研究論	
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習			
授業の概要 観光地理学は、人文地理学の下位分野の一つであり、観光現象に関連する空間・地域の動向、およびそれに関わる人間の行動や人間への影響などを分析の対象とする。この授業では、近年、世界各地で観光現象が活発化している背景や要因を説明したうえで、種々の社会理論も取り入れつつ、空間的な視点から人間と観光地の諸関係について講義する。			
授業の目的 本授業の目的は、観光を地域振興の手段として捉えるのみならず、権力関係や虚構性などに根差した空間的現象として、多面的に読み解く力を獲得することである（DP：地域理解，知識・理解に対応）。また、これを通じ、産業革命以降における空間の再編過程と場所の消費に関する理解を深めることも本授業の目的の一つである。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 観光現象が生じる背景や要因を説明することができる。 2. 観光地や観光空間が、形成・生産される過程とメカニズムを説明することができる。 3. 地域の構成要素が、観光の資源・商品となる過程とメカニズムを説明することができる。			
成績評価の方法と基準 ・授業内課題：30% ・試験：70% ※但し、全授業内課題のうち、2/3以上の提出を単位取得の要件とする。授業内課題は、不定期に複数回実施する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 第1回 導入 第2回 時間-空間の圧縮 第3回 コロニアリズムと観光地 第4回 交通網と観光地 第5回 観光地の境界性 第6回 観光空間の生産 第7回 観光の大衆化と観光地 第8回 自然環境の観光消費 第9回 農村空間の商品化 第10回 都市文化と観光空間 第11回 観光地のドラマトゥルギー 第12回 宗教空間／観光空間の相克 第13回 郷土料理と観光のまなざし 第14回 超空間の形成とディズニー化 第15回 総括			
【授業内の学習方法】 ・授業には必ず地図帳（中学・高校で使用したもので可）を持参し、説明にあがる国・地域・都市、河川・山脈などの位置をその都度確認する。 ・板書やスライドの内容のみならず、口頭で説明される内容にも注意を払い、ノートを取る。			
【自学自習】 ・授業で紹介された文献を読む。 ・新聞・テレビ・インターネット等で、国内外のニュースを読むまたは見る。 ・観光地に行く際には、観光地としてその地域を観察するのみならず、地域住民の日常空間として、その地域がいかなるものであるかについても考える。			
教科書・参考書等 教科書：特に指定しない。授業中にプリントを配布するほか、地図帳を使用する。 参考書：授業内において、適宜紹介する。			

オフィスアワー 木曜日 5時限目 (教員研究室)

※そのほか、事前に連絡をもらえれば、出来る限り対応します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・私語および教室への無用な出入りを厳禁とする。
- ・教室内では、スマートフォンなどのカメラを使った撮影を一切禁じる。